

抹殺社襲撃
原少將待命
今上陛下外遊
女踏切殉職
満鐵疑獄
新宿大火災
畜産博の始
丹那の犠牲
足尾の女房
盲詩人退去
婦人蹴球魁
日本一大鳥居

○二月二十七日、抹殺社の一味六名は東宮殿下の御渡歐延期を乞ふ意味の斬奸状を突きつけ、西園寺八郎氏を襲撃し傷く。
○二月二十二日、浦鹽に於て日本軍小笠原歩哨兵の米人ラングトン射殺事件に關し、浦鹽警備司令官西原爲五郎少將待命となる。
○三月三日、今上陛下皇太子殿下の御初り、嘗て御例なき海外御巡遊の壯途に上らせらる。御召艦香取、供奉員珍田伯外御附文武官を従はせられ、午前九時三十分東宮御所御出門十一時横濱港御出發、五月九日には倫敦御着、英國皇帝陛下の目出迎へを受けさせられ、ベツキングダム宮殿に向はせられ、日英交際を御増進遊ばされ、九月三日國民の熱聲なる歡迎裡に目出度御還啓あらせられた。
○三月六日、兩毛線伊勢崎驛構内女踏切番小川みね(四六)は老人を救はんとして轢死す、壯烈なる殉職に對し、國民の同情集まる。
○三月八日、満鐵に塔連炭坑賣買背任事件起り、野村社長、中西副社長は楯部、古島、安東氏から告訴され六月一日中西氏起訴さる。
○三月二十六日、新宿三丁目より出火、六百餘戸を焼拂ひ、新宿新遊廓全焼す、負傷者百數十名、損害二百五十萬圓。
○四月三十日、日本で最初の畜産博覽會本所被服廠跡の廣場に於て開催さる。
○四月二日、熱海線トンネル工事崩壊し十七名生埋めとなり、八日目に救助さる。
○四月十一日、足尾坑山三山の坑夫三千名は一齊に罷業を開始す。四月十九日坑夫の女房古河邸に押し寄す、十九日解決。
○四月二十九日、革命ロシアの盲詩人エロセンコ日本より退去を命ぜらる。
○五月、櫻井女塾の小笹淺子(一八)阿部かね(一八)は婦人蹴球チームを組織し東京蹴球團へ入團を申込み、これが婦人蹴球の魁である。
○六月八日、靖國神社は今年五十年祭舉行に當り、記念の大鳥居本日落成式舉行。高さ六十九尺四寸筧木九十八尺一寸五分、日本一の大鳥居である。

榮子の自殺
恒子の自殺
瓦斯疑獄
神戸大罷工
市營水泳場
ラッセル來
加州排日慘
歌舞伎座燒
海軍々縮會
議
初のカツプ
恩賜公園
最初の征服者
安田老刺る
原首相刺る

○六月十七日、濱田病院長の一人娘榮子(一八)は戀と三十萬の遺産を廻る家庭問題から自殺、足利子爵次女恒子(一七)は家庭問題から七月二十三日投身自殺、此頃上流社會の子女間に身殺流行す。
○七月一日、東京市の瓦斯收貯大疑獄事件豫審決定し、高橋義信、磯部保次、辰澤延次郎、熊谷巖以下七十名の市議瓦斯社社長、警視等何れも有罪と決定した。
○七月八日、神戸川崎造船所職工一萬名は三菱造船の職工と合流し二萬人の總罷業開始さる。十三日神戸製鋼二千の職工も罷業開始、暴動化の恐あるにより十五日軍隊一個大隊出動鎮壓する。
○七月十日、東京市社會教育課は月島に始めて公設水泳場を開設す。又二十二日より西郷山にて第一回小學生の夏期林間修養會を開催する。
○七月廿五日、思想界の巨人、英國のラッセル來朝する。
○七月十九日、加州の排日暴徒團は邦人百五十名を放逐す。尙一千名の邦人も續々放逐さるとの報道せられ國論沸騰する。
○八月三十日、東京歌舞伎座全焼する。
○八月二十三日、ワシントンに海軍軍備縮少會議開催され、帝國全權として加藤友三郎、徳川家達、幣原喜重郎出席す。十二月十三日、華府會議四國(太平洋岸英、米、佛、日)協約、日英同盟廢棄、即五・五三の比率等々公表、次でヤップ島に關する日米協約發表。
○八月、熊谷・清水兩庭球選手、初めてデヴィス・カップ戦に出場する。
○八月一日、芝離宮は東京市に御下附に決定、市は公園として保存すると共に市民に解放。
○九月一日、日本の登山家榎有恒氏は前人未踏のアルプスのエイガー山岳登山に成功し、世界で最初の征服者たる榮譽を獲得した。
○九月二十八日、富豪安田善次郎翁は大磯別邸に於て朝日平吾のため刺殺さる。平吾は長文の斬奸状を所持。
○十一月四日、時の平民宰相政友會總裁原敬氏は、近畿大會に出席のため四日午後七時東京驛改札口に入らんとした際青年、中岡良一のため刺殺さる。原氏は平民首相として最初の人であり、且つ『力の政治家』として民衆の信頼と攻撃とを一身に受けてゐた偉大な政治家である。同日内閣總辭職

皇太子攝政
名譽の悲惨
女教諭嚙矢
神宮記念祭
タイムス社
長來る
四十五議會

し、十三日組閣の大命高橋是清氏に下る。
○十一月二十五日、皇太子殿下攝政に任ぜられ給ふ。
○九月一日、出征美談「一太郎やあい」は小學校讀本第七卷に此の新學期から載せらる。十月一日主人公の一太郎は今、廢兵として悲惨な生活をしてゐる事發見さる。
○十月、千代田高等女學校の栗山津彌子は東京府立第五中學校漢文科教諭に就任。中等學校での女教諭の嚙矢。
○十一月一日、明治神宮鎮座第一年記念祭、今日より三日間舉行され、同日寶物殿は開館式を舉行し一般の拜觀を許さることとなつた。明治神宮外苑のトラック亦竣成したるを以つて東京市聯合青年團主催にて第一回明治神宮祭陸上運動會開催され東宮殿下御覽遊ばさる。
○十一月二日、倫敦タイムス社長ノースクリップ來朝する。
○十二月二十四日、第四十五回帝國議會召集さる。

大正十一年

東京中央局
全燒
大隈侯薨去
ジョ元帥來
大吹雪軍隊
出動

○一月四日、東京丸之内中央郵便小包發送室から出火全燒す。損害三百萬圓郵便物小包共五萬通燒失
○一月十一日、侯爵大隈重信薨去。享年八十五歳。隈侯は佐賀縣出身で最初藩の洋語教授を務め慶應三年鍋島藩に大政奉還を説き後藤次郎をして幕府に進言せしめ、明治二年基督教徒所罰問題で英のパークスと交渉し政治的天才を發揮したのが登龍門で、侯の三大偉勳として數へられてゐるものは(一)明治維新の勳功、(二)板垣伯と共に憲政發達の先驅者、(三)早稻田大學の創立者である。侯は舊に日本を生んだ偉大な民衆政治家、新文化の指導者たるのみならず實に世界的偉人であつた。葬儀は十七日日比谷公園に於て國民葬を以て行ふ。會葬者二十萬人。又、侯爵邸は早稻田大學に寄附せられた。
○一月二十日、世界大戰の偉勳者佛國のジョツフル元帥此日攝政殿下の答禮使として入京す。
○一月二十二日、信越方面大吹雪に襲はれ積雪一丈五尺に達し田口驛附近に六列車埋没し軍隊出動發掘す。二月に至つても降雪止まず勝山隧道崩壊。家屋の倒壊續出し數百名死傷する。

幸運の葉書

○一月元旦頃より「幸運の爲に」との薄氣味悪い葉書流行す。警視廳取締に苦心、これが所謂「謎の葉書」の最初。

日本の國富
山縣公薨去

○二月二十日、國勢院の調査で日本の總財産は八百六十億と決定される。
○二月二日、午後一時半元老公爵山縣有朋元帥薨去す。享年八十五歳、公は長州に生れ明治元勳の一人にして日清日露の兩戰役に功勳を立て陸軍の建設者であり長閑の總帥として官僚政治の元締で、文武位人身の榮を極め所謂大御所の名を擅にして軍の中心に貢献した以外は常に軍閥、官僚を根柢とする大勢力を擁して權力を擅にしてゐたので國民の褒貶の中心でもあつた。政府は國葬に決し、議會之を可決、八日比谷芝公園で舉行。
○二月十一日、普選斷行の國民大會芝公園で開催。前日より櫻の花に普選と記したマークを街路で賣り、第二維新の除幕式等々のビラ撒布さる。十四日豫算案で議場に亂闘行はれ中野代議士氣絶する。

普選斷行國
民大會

普選案二十四日上提され、六日青年團明治神宮に普選即行を祈願する。
○三月十日、東京上野に平和記念大博覽會開催さる。會てない大規模のもので畜産、林業、農業、工業方面の優秀製品を始め、美術、工藝建築等世界文化の粹を集め、産業の發達に鋭意努力しつゝある日本の現状と將來の發展とを示す。見物人は全國より殺到し非常の盛況であつた。

平和博覽會
さる

○ラヂオの始め、前項の平和博覽會で、東京朝日新聞社がその社と博覽會場との間に無線電話に同受話器を利用して實驗したのが公開受送の始めである。十二年十二月放送規則發布せられ、翌十三年から盛んに行はるゝやうになつた。

ラヂオの始
め

○四月一日、東京朝日新聞社主催の下に新聞製作展覽會始めて開催さる。
○四月十三日、英國皇太子ウエールズ親王殿下、東宮殿下御訪英の御答禮として御入京遊ばさる。全國民擧げて御歡迎、東京市には青年團學生等の旗行列、提灯行列行はる。十五日御閱兵、十六日少年團御親閲遊さる。

新聞展覽會
英親王來朝

○四月十六日、英太子隨員宿泊中の帝國ホテル本館全燒し、死傷者十數名を出す。
○四月十一日、法律第四十號農會法及借地借家調停法公布さる。
○五月一日、「お蝶婦人」で有名な聲樂家三浦環女史八年振りにアメリカより歸朝する。

帝ホ全燒
農會借家法
お蝶婦人歸

青年團大會
ダンス流行
加藤友内閣
成立
宮中御慶事
教育界美談
鷗外博士逝
エス號爆發
節約デー
ヘルメット
警官
富豪連脱稅
電療機發明
襲大暴風雨來

○五月二十五日、本日より東京丸之内商工會會館にて全國青年團聯合大會開催され、日本青年團聯合會組織される。永田東京市長議長の下に全國から代表三百名目下工事中の日本青年會館問題及補助金三千万圓要求の件等を附議可決した。

○五月、ダンス大流行。京橋ホールを始め各所にダンスホール設立され青年男女歡樂に酔ふ。五月警視廳ダンス取締規則を制定。

○六月七日、高橋政友會内閣總辭職、内閣改造問題から政友會内紛の結果にして、同日元田、中橋外四代議士を除名す。六月十二日加藤友三郎内閣成立する。

○六月二十二日、攝政宮殿下と久邇宮良子女殿下の御結婚本日勅許される。

○七月六日、皇太子(今上)殿下北海道御巡啓のため御發途。

○七月七日、宮城縣刈田小學校訓導小野さつき女史(一一二)は受持四年生を引率水泳中教へ子鳴澤與左衛門が水に溺れ之を救はんとして飛び込み兩名共溺死す、教育美談として全國の同情集まると共に世の鑑として永く賞揚せらる。

○七月十日、醫學博士、文學博士森鷗外氏死す。東京帝室博物館總長兼圖書館長として、又文壇の人として明治文化に貢献する所多し。

○七月十日、我國の空の大威力として誇つた追濱航空隊のエスエス軟式飛行船氣囊に自然引火爆發す。

○八月一日、全國一齊に節約デーを舉行し、閣議は物價引下げ策を決定す。これから「節約ぶし」まで唄はれ「節約」は國民の標語となつた。

○八月一日、交通巡査のヘルメット帽は今日勅令發布即日施行され、威風堂々ハイカラお巡さんが、「進め、止め」と號令する。

○八月、大富豪の脱稅續々暴露し、六日山口氏三千萬圓、二十日、大倉男十五倍、古河男六倍と査定され、二十四日高田商會四百萬圓の脱稅を摘發する。

○八月二十日、東大工學部助手村越小五郎氏(四四)は十七年間研究の結果物理的療法の電療機を完成世界的發明に成功する。

○八月二十五日、二十三日以來全國的に大暴風雨襲來し二十五日關東一帯は豪雨となり東京市の浸水

國民黨解散
瀨死の白鳥
日蓮諺號
コレラ流行
監獄の改名
丸ビル竣工
浦鹽港撤兵
相對性原理
江連力一郎
東阪飛行始
四十六議會
上奏問題解決

家屋七萬戸に達す。難破船、列車不通、流失家屋、死傷者等全國の被害甚大。二十六日颶風はカムチヤツカ沖を襲ひ出動中の軍艦新高沈没し古賀艦長以下乗組員三百名溺死し、生存者僅か十五名のみ。

○九月一日、國民黨は所屬代議士全部及地方代表者三百名出席の下に解黨大會を開催し、四十有餘年の永き歴史を有する國民黨は茲に解體し革新俱樂部となる。後大養總理等政友會に入黨する。

○九月四日、露國の世界的舞踏家アンナ・パウロワ入京す「瀨死の白鳥」の踊りを以てファンを魅了す。

○十月一日、日蓮大士に、立正大師の諺號宣下される。

○十月一日、より東京を中心に関東地方一帯にコレラ流行し市民不安に襲はる。四日漁介の撤入禁止され魚河岸休む。十三日迄の患者百六十四名、漸く此頃から下火となる。

○十月十四日、全國の監獄を刑務所と改稱す。此頃、理化學研究所に於て始めて合成酒發明せらる。

○十月、東洋一の丸の内ビルディング成る工費一千万圓延二萬九階。一日出入する者約十萬を數ふ。

○十月二十五日、日本軍はこの日浦鹽より撤兵を完了し、赤軍に押收武器を引渡す。これより先、日露間に薩哈噠撤兵問題にて日露代表は長春會議を開催してゐたが九月二十五日撤兵問題で決裂し、日本は二十八日に占領地及民政撤廢の布告を發したる結果による。

○十一月十八日、相對性原理で世界的に名を知られてゐるアインスタイン博士入京、各所で演説す。

○十一月十五日、江連力一郎等大輝丸「海賊」の虐殺事件發表され、連累者十三名送局さる。武器の出所について問題起る。

○十一月四日、東京大阪間定期郵便飛行開始さる。後藤勇吉氏二時間半で翔破し新記録を作る。

○十二月二十五日、第四十六回帝國議會召集さる。

○十二月二十九日、樞密院は對支外交に關し警告的上奏案を可決す。ために政府は三十日臨時閣議を開き樞府反對上奏案を作成し、上奏問題は政治問題化すに至つたが十二年一月二十二日、加藤首相に御沙汰書降下し上奏問題解決した。

大正十一年

小作官設置
荒川放水路
虎ノ門事件
二つの議會

大正十四年

○九月十八日、小作官設置の勅令公布さる。小作争議の續出に對する對策としての法令である。

○十月十二日、東京荒川放水路通水舉行さる。放水路完成千住、本所方面の住民水難より救はる。

○十一月十三日、虎ノ門事件判決あり、逆徒難波大助死刑宣告し處刑さる。

○十二月廿四日、第五十回帝國議會召集さる。其前六月二十五日臨時議會召集された。

○一月二十一日、日露條約調印され、日本は勞農ロシヤを承認し、漁業問題等一切の懸案を解決し、通商交易を開始することとなる。同露領林業組合成立。二月十五日、日露國交恢復國民祝賀會開催あり、人々は擴声器の前に集つた科學文明の驚異と感嘆と便益を歡喜し合つた。續いて、大阪、名古屋、仙台等にも開設され、全國浦々にまでラヂオ放送が普及されるに至つた。

○三月十八日、東京市外三河島町日暮里町大火、焼失家屋二千餘戸に及ぶ損害莫大。

○四月一日、農商務省を廢し、農林省、商工省を設置さる。

○四月四日、高橋是清氏政友會總裁並に農商兩大臣辭任を表明し、同時に田中義一男を政友會總裁に推薦す。田中大將政友會總裁となるに及んで政・革・中立三派合同具體化する。

○五月四日、師團廢止決定され高田十三、豊橋十五、岡山一七、久留米十八聯隊廢止さる。

○五月五日、普通選舉案は二月二十一日衆議院本會議に上提せられ、二月二十八日三派交渉開始され三月二日衆議院通過す。貴族院に於ては三月六日論議遂に修正案を可決し、ために三月二十七日兩院協議會開催され、衆議院は貴族院の修正を認めず、三月二十八日に妥協案成立し、依て會期を二日延長し三月二十九日普通選舉協案兩院通過す。五月五日普通選舉法公布され、我國の議會政治は眞に光輝ある一步を踏み出した。

東洋第一都
二省新設
田中大將政
友總裁なる
四箇師廢止
普選法公布

勞農ロシヤ
放送局開始

殿下御留學
但馬大地震
朝日機歐洲
飛行

再加藤内閣
成立
攝政宮行啓

片國弓八歸
議事堂燒失
關東豪雨襲
早慶復活戰
内親王御誕
生
ビス健強盜
反八石八斗
鶴見亂闘
逝ける名士
五十一議會

○五月十三日、埼玉縣熊谷町大火、その大半を燒失する。損害數百萬圓に及ぶ。

○五月二十四日、秩父宮英國御留學の途に上らせらる。關東震災の記憶未だ新しき折から民心動搖す。

○五月二十五日、但馬豊岡地方に激震あり、死傷者數千を出し、この朝爆音高く代々木練兵場を官民歡呼の中に離陸、露、獨、佛、英、伊等訪歐飛行の壯途に上る。十月十七日最後の着陸地ローマに安着。

○七月二十一日、護憲内閣破れ、此の大壯舉によつて我々國民航空界は世界的に進出した。

○七月三十一日、加藤内閣改組されて憲政會内閣となる。政友、政本提携申合ふ。八月一日再び加藤子に大命降下。攝政宮樺太に行啓。其十七日還御あらせらる。

○八月五日、平和議定書は「人民の名に於て」と記載され有に因て帝國は調印せざることに決定。

○八月二十四日、片岡八、歐洲大戰當時スペイン沖に沈没したる八坂丸の金塊引揚に成功し意氣揚々歸京。

○九月十八日、貴族院議事堂全燒す。直ちに假議事堂を燒跡に建築することに決定。

○十月一日、大豪雨關東を襲ひ死傷十數名、東京の浸水八千戸に達した。

○十月十九日、二十年振りて早慶野球戦復活し、第一回戦開始されファンの血をわかさしむ。

○十月二十六日、皇孫照宮成子内親王御誕生遊ばさる。

○十一月三日、ビス健と稱する殺人強盜大西清次郎各所に出没し世間を騒がしたが遂に捕縛さる。

○十二月三日、神奈川縣鶴見町潮染三郎氏は一反歩より一石八斗を實收した。

○十二月二十一日、植村正直、木内重四郎、村田保、久保田政周、上野鞆鞆、藤間勘翁、中村覺、宋秉峻、横田千之助、東儀季治、柴田衛守、南天棒、井口省吾、新田原重行、國玄卿、米原雲海、江木衷、平田東助、久野久子、進藤喜平、太徳川頼倫、大町桂月、矢島揮子、長田偶得、山脇玄、濱尾新、湯本武比古、由比光衛、岡野敬次郎、瀧田哲太郎、岡部長、木下利玄の諸氏。

テキヤの先輩(東京日日新聞第四千十號所載明治十八年四月二十二日)

西洋一流の騙 佛國ビールシヤロンの街頭に一人の乞食の身に垢染みたる衣を纏ひ左も打惜れたる風體にて、行懸りたる一人の男に向ひて、私は不仕合の重なりて零落れたるものにして幼なき倅や娘もあれど、今日で早や二三日の飯も食することが出来ませぬから餓死するばかりで居ります、どうぞ御情にと袖にすかり附くに、此方はエー面倒と振切り行かんとするを恨めし氣に打守りつゝ、何思ひけん肌添へたるピストルを取出しヤレまてと云ふ間もなく、我と我身に銃先を押當てズドンと一發打放せば、何かは以てたまるべき仰向け様に打倒れ、虚空を攫みて苦し死を爲したりけり、此體を見るより通懸りたる男は益々驚き左れども詮方なければ、先づ死人をば目立たぬ處に押遣りつゝ、倍此有様を見んとて集り來りたる人々に打向ひ、見らるゝ通り可愛想なことを致しましたが、開けば此乞食には幼なき子兒等もあるよし、各方も此處へ通り合はせた不祥に少々なりとも出し合はせて、跡に残されし小兒等を助られるなれば此上なき仁慈なるべしと説勧めたる情ある早速の取扱に、人々も憐れを催ほして些少宛其處へ抛出す途端に、巡行の巡査が此變を聞きて駆付け來りぬ、此體を見るより死んだ乞食も、世話をせし男も多勢の中を潜りて、何處へ行きけん行方知れず消失せられたれば、金を出した連中は、借ては彼奴等が一手を組みめて騙り居つたかと怒るもあり喧やくもありしが、果ては大笑となりて散じたりと云ふ、蓋し西洋一流の騙術なり願くば輸入致し度くないもので御座る。

第八編 今上陛下御代萬々歳

第一章 昭和より

昭和元年 十二月昭和と改元

○一月十五日、「京都學生事件」の學生三十八名は最初の治安維持法違反として起訴收容さる。
○一月十五日、秋田縣小坂鑛山煙毒事件に關し、會社の無誠意に激昂したる農民三百餘名は鑛山事務所に殺到し之を襲撃した。
○自動車の生命—アメリカの自動車商業會議所が毎年登録臺數と廢車臺數、總使用臺數について十ヶ年間に亘りて調査しその平均を求めたが、ザット七年と云ふ數字が出たと云ふ。
○一月二十八日、首相加藤高明薨去。内閣總辭職し、議會四日間停會となる。二十九日、憲政會若槻氏を總裁に推戴、組閣の大命若槻氏に降下。三十日若槻内閣成立。
○二月十一日、始めて「建國祭」舉行さる。青年團、處女會、男女學生、在郷軍人、教化團體等多數二重橋前に參集、永田東京市長の司會の下「建國の精神を」大に宣揚す。以來毎年二重橋前、靖國神社、上野公園等を始め全国各地に盛大に舉行さる。
○二月廿八日、大阪松島遊廓移轉敷地問題に關し前遞信大臣たる箕浦勝人等を中心に疑獄事件起る。
○三月五日、日本農民組合の提唱で、「労働農民黨」結黨式を舉行。無産政黨茲に再建さる。後右翼派は脱退し社會民衆黨を組織した。
○三月二十五日、鮮人思想家朴烈、金子文子等の大逆事件兩人共無期懲役の判決下る。
○五月二十四日、北海道十勝岳爆發し、民家數百戸破壊死傷者二百餘に及ぶ。
○七月一日、郡制廢止、治警第十七條撤廢、改正工場法、健康保險法、労働爭議調停法本日施行さる。
○七月一日、青年訓練所全國一齊に開所さる。大正十四年の四個師團廢止の結果設けられ、學生及青年に軍事教練を施し、一朝事變に備へるにある。青年訓練所は、全國各市町村に設けられ、滿十六歳

警廢と暴民 民族會議
 人見絹枝渡 歐
 貧弱な數字 鬼熊の出現
 木崎村争議 神宮體育大會開催さる
 香川縣金藏 寺小作争議
 惡化す 社會黨結成
 日勞黨結成 大正天皇崩御
 健康法實施 三黨首妥協

昭和二年

から二十歳の者に軍事教練を施し、修了者には兵役在營年限短縮の特典が附與されてゐる。
 ○七月十八日には長野縣下警察署存廢問題で約三千人の暴民縣廳に迫り知事を殴打した。
 ○八月一日、全アジア民族會議、長崎に開かる支那、印度等からも代表出席し、アジア民族の團結と利益の増進を決議する。一日、郡役所全廢す。
 ○九月、瑞典ゴデンブルグに第二回女子國際オリンピック大會開催、人見絹枝嬢單身出場し一人で十五點獲得、名譽賞を授與され、日本女子のため氣を吐く。
 ○悲しい日本の數字 郵便貯金人員數は世界一だが、一人當りの貯金額は二十二一位の貧弱さである。
 ○九月、鬼熊と通稱される殺人犯人、四十餘日間千葉縣下の山中に潜伏し、警官や青年團の包圍線を巧みに突破して、農家に於ける容易に縛につかず、全國の噂に上つたが後自から自殺した。
 ○九月九日、新潟縣に於ける木崎農民學校を解散し村小作争議の遺物農民高等學校を改組す。
 ○十月二十八日、新瀧川に於ける木崎農民學校を解散し村小作争議の遺物農民高等學校を改組す。
 ○十月二十八日、明神宮外苑の競技場は最後の大野球場、大相撲場も茲に竣成し、名も明治神宮體育大會として競技大會舉行さる。全國より集つた選手數三千六百餘名、選手權數六十有餘、眞に世界オリンピック大會にも譲らざる盛觀を極む。
 ○十一月四日、香川縣瀧川村金藏寺小作争議（二月勃發、係争五百町歩、日農）差押多稻毛競賣に小作人激昂、警官と衝突し三十八名起訴さる。
 ○十二月五日、勞農黨から脱退したる右翼派の總同盟、官業、海員組合等により社會民衆黨結成さる。
 ○十二月八日、社民黨及總同盟分裂し日本勞農黨結成さる。
 ○十二月二十四日、第五十二回帝國議會召集さる。
 ○十二月二十五日、大正天皇崩御遊され今上陛下御踐祚遊ばされ昭和と改元。

解放デー 殿下御歸朝 御大葬
 明治節制定 モラトリアムの始め
 震災手形法 議會を通過
 公益質屋法
 田中内閣成 立五十三議會 銀行救濟費
 福島の大火 ビル籠拔
 消費組合 山東出兵 富民協會成

算審議權全く放棄さる。
 ○最初の議會解散デー勞農黨の主催にて全國的に行はる。
 ○一月、英國に御留學中なりし秩父宮殿下には御父大正天皇陛下の大喪の爲め急に御歸朝になる。
 ○二月七日、大正天皇の御大葬新宿御苑に行はせられ、哀愁の氣全土を蔽ふ。
 ○二月一日、毎年十一月三日を明治節として四大節とする旨制定さる。
 ○二月、歐洲大戦中の好景氣で我事業界は大膨脹を來したが、大正九年に其の反動が現はれ、十二年の大震災で打撃を受け、大正十五年下半期に至つて資金を貸し出せる銀行は窮迫の狀態に至つた。
 ○即ち翌昭和二年二月中旬、東京廣部銀行は取付のため休業し、全國各地に取附騒ぎ勃發し、銀行の休業續出し、財界未曾有に混亂し民心動搖せるを以つて政府は一時各銀行に一齊休業を命じ三週間の支拂猶豫の緊急勅令を發布し、やと人心を鎮靜せしめた。
 ○三月二日、震災手形法帝國議會を通過し、銀行、會社の破綻を政府の手で救濟することになる。此頃より震災の打撃のため金融恐慌の兆現る。
 ○三月三十一日、法律第八十八號公益質屋法公布さる。本法制定の淵源は宮崎縣細田村が自治的に村營質庫を創始したのにある。
 ○四月十七日、臺灣銀行救濟案が樞密院で否決され、且つ支那革命の狀勢にも干連して若槻内閣總辭職し、田中政友會内閣成立す。
 ○五月四日、臨時議會開會され、銀行救濟費七億圓を日本銀行より特別融通することを可決した。
 ○五月十二日、長野縣福島町大火災あり家屋焼失六百餘、死傷數十名も出した。
 ○昭和二年七月、丸ビルで、八萬圓の籠拔泥をやつた、拓植利兵衛は元岐阜縣の刑事であつた丈けに逮捕困難。
 ○七月二日、第一回の消費組合デー舉行され以後毎年行はるゝに至つた。
 ○七月八日、田中内閣の下に第一次山東出兵行はれ、以後出兵相次ぎ田中式の武斷外交大に行はる。
 ○此年、農事改良獎勵のため、東京日々新聞社と大阪毎日新聞社の社長である本山彦一氏の寄附する現金二十萬と田畑六十五町歩の土地を基本として財團法人富民協會生る。

五十四議會
地下鐵開通
劍劇流行す
諸名士逝く

○十二月二十四日、第五十四回議會召集さる。
○十二月二十九日、大正十四年九月以來着々工事を進めてきた東京の地下鐵道は、茲に第一期工事完成し、上野、浅草間開通を見た。これ東洋に於ける嚆矢で、其後上野、萬世橋行も開通した。
○この年、阪妻、澤正等の劍劇大流行し映畫に、芝居に、讀物に世は幕末の劍戟物全盛となり、兒童は「寄らば斬るぞ」とまね事をして遊ぶに至つた。また全集物、圓本等が讀者界に流行し出した。
○又此年、野田卯太郎、大村西涯志賀重昂景山英子村井弦齋徳富蘆花、澤柳政太郎、横井時敬等歿す

昭和三年

總選舉の成
三・一五事
無産團解散
山東出兵聲
電車顛覆
支那兵暴虐
野口博士薨
電送寫眞始
張作霖爆死
治安法改正
國際進出

○一月二十一日、第五十四議會は田中内閣により解散され、最初の普通選舉行はれ、無産黨立候補し大に活躍す。田中内閣は無産黨に大彈壓を下し、特に香川(大山)長野(藤森)に於て酷烈を極む。
○二月二十一日、普選開票。政友二二八、民政二二七名、無産黨八名當選す。
○三月十五日、日本共産黨員全國一齊に大檢舉され千餘名檢舉され、うち數百名起訴收容さる。三・一五事件といふ。
○四月十日、三・一五事件に關連して労働農民黨、無産青年同盟其他政府から解散を命ぜらる。
○四月二十日、支那動亂に對し政府は自衛上山東に出兵したる旨、外務省聲明書を公表す。
○四月二十四日、山手線電車田端驛に於て六輛顛覆し重傷者五十餘人を出した。
○五月三日、支那濟南に於て我邦人百餘名南軍のために慘殺された。
○五月、細菌學の世界的權威野口英世博士南アルフリカに於て黃熱病原研究中歿す。
○六月四日、張作霖は蔣介石に敗れ滿洲に引上げの途上、奉天に於て爆殺さる、後責任として日本滿洲軍幹部處分さる。
○六月三十日、治安維持法緊急勅令を以て改正國體の變革を死刑とし私有財産制否認を十年とす。
○七月一日、織田幹男、高石勝男、鶴田義行等の日本選手、アムステルダム第九回オリムピック大會に出場して大に活躍す。

メートル法
實次氏復縁
東京市會疑
獄起る
不戰條約成
宮中御慶事
思想善導掛
陪審法實施
共産黨首死
日支交渉
金解禁建議
即位の大典
多收獲を實
際した勇士
トーマ氏來

○七月一日、メートル法實施され、白米の販賣に適用さる。
○八月一日、床次竹二郎氏等民政黨を脱退し新黨組織を聲明したが、後政友會に復歸。
○八月十一日、東京市會の魚市場移轉に擲み板舟權、其他の收賄事件曝露し三木武吉、中島守利等多數の市議起訴收容さる。
○八月二十七日、所謂「ケロッグ不戰條約」日本外五十一ヶ國で締結され國際間に平和の希望漲る。
○九月、皇弟秩父宮殿下、松平勢津子姫と御成婚遊ばさる。
○九月十一日、文部省の統轄下に「思想善導」機關設置され、又學生監督係(學生主事)任命さる。
○十月一日、刑事訴訟法の一部改正され、陪審法こゝに實施さる。我國裁判の一新紀元と言はれこの日は盛大に記念された。
○十月六日、日本共産黨主領渡邊政之助臺灣基隆に官憲と闘ひ死す。
○十月十八日、濟南事件、漢口事件等を解決のため日支交渉を南京に開催さる。
○十月二十五日、東京商工會議所は金解禁即行の建議案を可決す。
○十一月十日、今上陛下の人皇百二十四代御即位の大禮京都紫宸殿に舉行さる。全國を擧げて此の日を祝し、各都市には奉祝の花電車、提灯行列、祝宴が催さる。
○反五石以上收穫者、彼の富民協會の獎勵に参加した力農中、第一回の競争に於ける四石以上收穫者は下の十四名であつた。
○十二月五日、國際會議局長トーマ來朝し、無産政黨の右翼は歓迎し左翼は排撃す。

無産黨の動
五十七議會

農民暴動

問責案可決

說教強盜

山宣被暗殺

四・一六事

天覽試合

深夜業廢止

拓務省設置

東大飛行使

濱口内閣成

旅客航空始

ツエ伯號來

不戰條約公

布親王誕生

田中男急死

官使減俸不

○十二月二十日、日本労働農等七黨合同し日本大衆黨を結成す。○十二月二十二日、曩に解散された労働農民黨は「労働者農民黨」として結黨大會を挙げたが即日解散を命ぜらる。○十二月廿四日、第五十七期帝國議會召集さる。又其前四月二十日には特別議會召集された。

昭和四年

○一月十日、犀川切落工事反對に端を發し、岐阜縣安八郡七ヶ町村の農民は暴動を起し軍隊出動し鎮壓す。檢舉者數百名。
○二月二十二日、水野文相の進退に關する處置（昨年五日所謂優待問題）に對する田中首相問責決議案貴族院に於て可決。
○二月二十三日、女流文士三宅某女を襲つたので殊に有名になつた所謂說教強盜妻木松吉逮捕され市民安堵する。○三月五日、労働農選出代議士山本宣治氏、七生義團の黒田某に刺殺さる。
○四月十六日、日本共産黨員の大檢舉再び全國的に行はる。之を四・一六事件といふ。
○五月五日、宮城内に大禮奉祝記念武道大會開かれ、柔剣道合せて百名の選手及斯道の達人六十四中豫選に入つた二十四名は、陛下の御前で天覽試合を行つた。○六月一日、深夜業本日以後廢止さる。
○六月十日、拓務省新たに設置され、田中首相兼任する。
○六月五日、東京、大連間に定期航空郵便開始さる。
○七月二日、田中内閣總辭職し、代つて濱口氏を中心とする民政黨内閣組織さる。
○七月一日、より東京、大阪、福岡間に始めて旅客航空輸送開始さる。
○八月十九日、獨逸のツエツペリン伯號飛行船は、大西洋を横斷し、西比利亞の空を飛んで、此の日帝都を來訪す。巨大なる雄姿に滿都を湧かし、太平洋を一氣に翔破し、米國レーキハーストに着陸し僅々二十三日間で世界一週を終了した。○七月廿四日不戰條約批准書公布さる。
○九月十三日、第三皇女孝宮和子内親王殿下御誕生遊ばさる。
○九月二十九日、前首相田中義一急死す。犬養老政友會總裁若返り。
○十月十八日、政府は官吏一割減俸を發表したため、減俸反對運動東京檢事局より全國裁判所、各官廳に捲き起り、政府をして讓歩せしむ。
○十月十日、伊勢神宮式年遷宮祭行はれ、今後國家的大祭典となる。
○十一月一日、大山、細道、上村氏等の提唱による新労働農此日結黨さる。
○十二月六日、東京市電、自動車ゼネ・ストに入り市の交通機關杜絶し、丸山警視總監の調停によりて大事にいたらず解決す。
○十二月十九日、米國映畫俳優ダグラス夫妻入京し、大にファンから歡迎さる。此頃からトーキー興行さる。この年華小唄、東京進行曲等流行す。
○昭和四年度に於ける富民協會第二回競作者反五石以上八石以上の收穫者、左の通り發表された。

成立
遷宮祭
新労働農黨生
丸山總監調
停
ダグラス來
多收穫八石
取りをした
勇士

文樂座成る
清水時開通
世想險惡甚
名士逝く
金解禁

昭和五年

○一月十一日、濱口内閣が兼て聲明したる金解禁は此日を以つて施行さる。○一月二十一日、金解禁
○十二月廿六日、大阪四つ橋を畔に復興された人形淨瑠璃劇場文樂座落成し盛大に舞臺開を挙げた。
○十二月廿九日、國有鐵道上越線清水越の隧道貫通した、我國八八式陸道の第二番目の工事である。
○本年は春早々帝都には所謂說教強盜が一、二世、三世と神出鬼没都下の人心を脅かした。加ふるに山本代議士の暗殺あり、又共産黨の檢舉、勳章疑獄、鐵道疑獄と疑獄續きで世想的險惡なるを偲ばせられる事が多かつた。
○又本年は後藤新平、北條時敬、井上十吉、上杉慎吉、内田魯庵、須貝快天、村上專精、杉本道山等

全國農家戸數

後最初の金輸出二百萬圓米國へ送られる。
○全國總戸數と農家戸數及總戸數に對する農家戸數割合。

年次	總戸數	農家戸數	總戸數に對する農家戸數割合
明治四十三年	九、三二、二五	五、四七、九八	六・〇〇
同 九 年	一〇、五七、五三	五、五七、〇九	五・二七
昭和 元年	一、四〇、〇九	五、五五、一五	四・八七
同 一 年	一、〇六、五七	五、五五、一五	五・一三
大正四年	九、八三、九七	五、五五、〇八	五・六
同十四年	一一、二五、三二	五、五八、五九	四・九三
同十四年	一〇、六五、七六	五、五八、五九	五・一三

備考 總戸數及農家戸數ハ農會調査ノ農事統計ニ依ル但シ大正九年迄ハ其ノ農事統計ニ沖繩縣ノ分ヲ加ヘタルモノナリ

- 高松宮御婚成
- 若槻全權
- 焦付澤山
- 不景氣襲來
- 帝都復興祭
- 休業銀行始
- 五大疑獄開
- 始
- 市電總罷業
- 梅デーの騒
- 減給始
- 國民と軍部
- 催涙ピストル
- 極東大會
- 航空隊生る
- 海軍の不滿
- 元賣捌廢止
- 財界恐慌
- 農村疲衰極
- 無産合同

○二月四日、皇弟高松宮殿下と徳川喜久子姫の御婚儀賢所大前に於て行はる。更に十八、十九、二十日の三日間、赤坂離宮にて御披露を行はせしむ。

○二月九日、倫敦軍縮會議成立し、國際平和の使命を帯びて軍縮會議に出席したる若槻全權は、倫敦マルコニ無線局より日本に向つてラヂオ放送す。

○二月二十五日、曩の日銀特別融資は回収額僅か二百萬圓にして、未回収高六億圓に達す。

○三月四日、株式一齊に崩落し世界的不景氣の波は深刻に日本全土にも襲來し其の打撃は愈々甚だしくなつた。

○三月二十五日、大震災以來七年、茲に帝都復興し面目を一新す。復興祭盛大に舉行され花電車、行列、提灯行列、式典等帝都は歡喜に満つ。

○四月一日、栃木銀行休業し、農村全く窮乏し、農村地方の銀行續々休業す。

○四月十日、鐘紡減給を發表し全國三十二工場四萬の従業員動搖隅田工場意業、淀川兵庫京都工場罷業す。

○四月十六日、小川某の私鐵疑獄を始め、東京市會議員、小橋某の越獄、山梨某の朝鮮事件、天岡賞勳局等「五大疑獄」の豫審夫れ、終結し、前後して公判開始さる。山梨小橋共に無罪となる。

○四月二十二日、日英米佛伊國間に本年一月二十一日よりロンドン軍縮會議開催され、此日條約成立す。

- 縮會議收獲
- 市電總罷業
- 梅デーの騒
- 減給始
- 國民と軍部
- 催涙ピストル
- 極東大會
- 航空隊生る
- 海軍の不滿
- 元賣捌廢止
- 財界恐慌
- 農村疲衰極
- 無産合同

し調印さる。會議は補助艦の比率で日米が決裂しさうになつたが、結局日本は對米七割を總括的に認めしめる代りに、大巡艦は對米六割、潜水艦日米均等に讓歩し成立した。

○四月二十八日、東京市電再び總罷業す。青年團、在郷軍人出動し、二十六日爭議團慘敗の中に罷業打切となる。

○五月一日、今年の梅デーに當り、非合法派の全協(日本労働組合全國協議會)は川崎市に於て(武装デモ)を行ひ共産青年同盟員官憲を射撃し騒擾を起し。多數檢舉さる。

○五月五日、三菱長崎造船所アルドルシステム(順次休週制、六割給與)を始め施行、以來大工場に於て續々施行さる。

○五月十九日、倫敦軍縮會議の帝國全權若槻、財部氏等歸京す。一般國民は軍縮の成功を祝して之を歓迎す、而し、軍部は軍縮條約に不滿を表示し反對の氣勢を擧ぐ。

○五月二十六日、東京市電復職要求(罷業の犠牲者)のデモ行はれ、警官催涙ピストルを使用し之を鎮壓す。始めて催涙ピストルの使用にして物議を生む。

○五月三十一日、明治神宮外苑に日、比、華印の選手を以て第九回極東オリムピック大會舉行さる。

○六月一日、秩父宮總裁として御統轄、日本優勝し、天皇杯は再び我選手に授與された。

○六月十一日、東京灣の關門千葉縣館山に海軍航空隊設置さる。

○六月十七日、煙草元賣捌廢止發表され、全國の元賣捌人反對して事前に廢業する者續出つ。

○六月、四年下半年期及五年上半年期を通じて株式は慘憺なる崩落で、この一ケ年間に總平均二割九歩の下落となり、恐慌は漸く深刻化する。

○七月十二日、長野、富山縣等に製作工場の休業及女工賃銀不拂續出す。政府は「組合製糸」を農村に奨励す。又農村の疲弊極に達し税金滞納、教員給料不拂問題續出し、東京牛込の小賣商人亦税金延納を協議する。

○七月二十日、日本大衆黨、全國民衆黨外十地方政黨合同し、全國大衆黨結成さる。

稚内大火災
 勞農議會
 青年團御親
 閣
 首相被狙撃
 煙突男出現
 校長が毒殺
 天理教々師
 の強盗殺人
 伊豆大地震
 統制と買上
 東京各新聞
 社起
 國勢調査
 露國無法
 年二度議會
 兎飼ひの流
 行的歴史

○北海道稚内の大火、十一月一日北海道港旅館より出火、目貫の場所百九十七戸を焼く。
 ○十一月二日、全國大衆黨は東京、大阪、京都（一日）に最初の試みである。「勞農議會」を開催し、彈壓のため亂闘となり中止解散さる。
 ○青年團代表御親閣、天皇陛下には十一月三日明治節に、全國男女青年團代表三萬五千人を宮城前廣場に於いて御親閣あらせられた。
 ○十一月十四日、濱口首相、東京驛頭に佐郷某のため狙撃され、重態の儘帝大に入院手術を受く。
 ○十一月二十一日、川崎市富士紡争議解決す。日本最初の「煙突男」の快撃に負ふ所多し。
 ○十一月二十二日、高知縣本山町木能津尋常小學校校長岩元某は妻の生命保険金を欲しさに毒殺した。
 ○十一月二十五日、神戸市大開通天理教々師玉川某は強盗の目的で集金に來た電氣局の女集金人を殺して直に捕へられた。
 ○十一月二十六日、午前四時三分靜岡縣三島町、葦山、長岡、古奈を中心にして東海道及關東一帶に亘りて大地震あり、當日夕發表されたる被害数は下の如し、死者二百三十六人、重傷百二十四人、家屋全潰六百七十二戸、半壊四百五十九戸であつた。
 ○十二月三日、全國の製絲業三年迄全休に決定し、又政府は玄米二百萬石買上に決定す。
 ○十二月十五日、民政黨内閣の言論壓迫問題に關し、都下三十二新聞は共同抗議す。内相釋明し、陳謝する。
 ○十二月十六日、同年十月一日一齊に行はれた國勢調査の速報發表さる。日本總人口九千四十萬人、失業者三十二萬人。
 ○十二月十七日、露國政府は浦鹽の鮮銀支店に閉鎖命令を發し、次で神戸の極東銀行支店閉鎖され、日露間紛糾する。
 ○十二月十四日、第五十九帝國議會召集さる又其前四月廿一日、臨時議會召集された。
 ○アングラ種兎の輸入は昭和四五年來のことで最も新しい、此種の兎を大いに繁殖を圖することは毛絲自給を實現するため國策上義務とするものである。これは近年の輸入であるが、その經營さへ宣しきを得れば、將來最も有利な副業である。又皮肉を目的とする養兎もあるが、これ又決して引合

カフェ全盛
 スポーツ流行
 軍縮の波及
 蠶糸協議會
 頼被内閣
 失業者の襲撃
 續出

ぬ副業ではない。只慎むべきは投機的にやらぬことである。兎の輸入——流行は明治初年からのこと
 で、始めは珍らしさの餘り愛翫用として飼養されたものらしい。それがやがて投機的になつて、一番
 が五六百圓に買賣されて、忽ち成金になつたものもあつたが、倒産する輩も續出すると云ふ憂ふべき
 狀況にいたつたので、東京府では明治六年十二月府令を發して、殆んど禁止税に等しき課税をかく
 ることにした。即ち兎一匹に付月税一圓、もし無届を發見された場合には二圓宛の過怠金を徴収する
 ことを勵行したので忽ち火の消えたやうになつたと云ふ笑話も残つてゐる。
 ○世は擧げて殺人的不景氣に襲はれ、工場地帯や農村では民衆と官憲衝突し、他方大都市の夜はネ
 オン・サインの光とジャズの音に包まれ、所謂「エロ・グロ」全盛を極む。所謂世紀末の世相を呈
 す。
 ○スポーツの流行——淨化運動起る。兩三年來全盛を極めてゐるスポーツ界にも、近頃いろいろの弊
 害が生じて、今はその淨化要望の聲を聞くやうになつた。スポーツする以上、勝敗を争はなければな
 るまい。けれども、その勝敗をスポーツの目的以外に求むる處に弊を認める。淨化の必要はその邊に
 あると思ふ。
昭和六年
 ○一月二十一日、佐世保、吳、横須賀、舞鶴等海軍職工一萬人（總職工の二割二歩）の整理案發表さる。
 ○一月二十一日、蠶糸中央會は米國絹業協會と提携し生絲の國際的進出の爲め需要増進五ヶ年計劃を
 協議す。二十三日には「製絲業を免許制とせよ」と協議。二十七日には製絲操業全休期間を前に違反者
 嚴罰方法を考究。
 ○一月二十二日、第五十九議會再開され幣原首相代理問題で議會大に紛亂す。此の代理内閣を「頼か
 ぶり内閣」と呼ぶに至つた。
 ○一月二十九日、失業者激増し、朝鮮人自由労働者約五百名は東京目黒紹介所を襲撃。これより先七
 日川崎市で自由労働者五百名、九日東京玉姫紹介所へ四百名、十日大阪市廳へ三百名、十四日大阪今

- 豊作饑饉米 百萬石買上
- 堺利彦飛ぶ
- ピオニール
- 北洋漁區問題
- 梅の節句提唱さる
- 自由廢業
- 婦人向煙草 俸給不拂
- 反宗運動起
- 孤島大爆發

宮紹介所へ二百名何れも職にあぶれて失業者「働かせろ、食はせろ」と殺到し襲撃した。
 ○二月一日、政府の米穀委員会は第二次米買上げとして五年度産内地米百萬石買上げ實行を決定。因に五年度の米收穫高は六六、八九二、〇〇八石にして四年度に比し七、三二四、三一四の増收、所謂「豊作の饑饉」を出現した。
 ○二月五日、九州行橋町に開催された農民組合主催の農民學校長に招聘された堺利彦老は、愛嬢眞柄と共に立川より飛行機で赴任した。滞橋中、故郷豊津村に竹馬の友を尋ねて一首を残した。
 ○二月三日、埼玉縣児玉郡共和村桑土地會社對五百餘名の田畑作料五割減要求爭議激化し、小作人児童(高等科生)六十名は、ピオニールを組織し赤旗とマークを作成、聲明書發表、父兄を應援し、授業料値下げを校長に要求した。
 ○二月四日、北洋漁區貸借問題に關し日露間に紛争惹起、外相はサヴェエト大使との間にルーブル換算率、漁區問題に就き交渉。サヴェエト側妥協を拒んだが後今期換算率三十二錢五厘の豫納で解決。
 ○本年二月十一日建國祭第五回の舉行に際し、その精神を一層徹底さすべく、全國の家庭を對照に、「梅の節」を祝はんことを提唱さる。年代記の編者は、それより先き既に、梅魂説ならざる可らざるも高調してゐたので、建國祭季の提唱に共鳴して、日頃の研究する處を編輯して「梅のもつ興國性」なる單行本を發行して、その運動に資した。
 ○二月十七日、煙草元賣捌廢止期たる六月一日を待たず東京管下の同業者は二日に一齊自由廢業。
 ○此月婦人用卷煙草の發賣、專賣局は販賣直營を開始すると共に婦人用細卷煙草を賣出した。
 ○三月二十九日、小學校教員の俸給不拂續出し、全國で千二百町村に及ぶ。地方町村子弟の中學校及高等女學校入學志願者激減した。
 ○三月、中旬秋田雨雀、高津正道、川内唯彦等を中心とする左翼運動の一派によつて神田區今小路江戶ビルで反宗運動が企てられた。
 ○口永良部島の大爆發が四月二日午後八時及五月十一日午後五時、霧島火山脈に屬する鹿兒島縣口永良部島大爆發被害が頗る多かつた。

- 若槻内閣成
- 支拂猶豫
- 松江市大火
- 鐵相讓歩
- 政府減俸案を正式に決定
- 廢燈決議
- 少年航空隊
- 赤字の精算
- 村の問題
- 滿鐵社長更
- 群馬縣旋風
- 共產黨公判
- 蛇廿四萬匹
- 人見嬢の死
- 女巡查始

○四月十二日、濱口内閣總辭職、若槻禮次郎氏大命を拜し、即日組閣成る。
 ○五月五日、政府は農村不況のため救済策として自作農創設資金償還金を向一ヶ年間回收猶豫に決定。松江市の大火、五月十六日、午後三時半松江市次本町岩田旅館分店より出火、目貫の場所六百七十戸を全焼又七十五名の負傷者を出した。損害百五十萬圓に達した。
 ○五月二十日、鐵道省の減俸反對運動全國に波及し「總罷業」を思はせたが鐵相の讓歩で妥協成立。約六十萬圓、文部省六千九百九十萬圓、外務省六百六十十七萬圓、海軍省九千九百圓、内務省三千五百名、約六十萬圓、適用基準年俸千二百圓以上、減俸率最高二割、最低三分、退職賜金は現行率。
 ○六月一日、仙臺、熊本に航空聯隊、少年航空兵制度新設さる。
 ○六月四日、不景氣のため國家の財政破綻し、六年度の歳入不足は二億圓内外と推定されてゐたが政府は再度豫算の節約を行ひ、本日六年度歳入不足額は八千萬と發表さる。
 ○六月一日、滋賀縣阪田郡北郷里村では小學校移轉問題から南北に分離し、南部は勝手に昭和村と命名、別に昭和村小學校を設立二日から無認可で授業開始。
 ○六月十三日、政府は伯爵内田康哉を滿鐵總裁に任命し、急迫せる滿蒙政策の確立を期す。
 ○六月十二日、群馬縣の大旋風、夜半倉賀野町宇直光に大旋風起り、住家十二戸、非住家二十數棟を倒壊四十四名は其下敷となり二名は惨死し、十數名負傷する。
 ○六月二十五日、本日より、三・一五、四・一六、及中間檢擧の日本共產黨中央部の公判、東京地方裁判所に宮城裁判長系にて公開のまゝ開始さる。
 ○勿論捕へた蛇廿四萬匹捕の名所として知られた滋賀縣蒲生郡武佐村では、縞蛇を頭にマムシ、黒蛇等廿四萬匹を捕へ、この不景氣を外に村民の懐中は温かとは、元締役の佐藤榮藏君の話である。
 ○八月二日、日本の生んだ世界的スポーツマン、人見絹枝嬢肋膜炎にて死す、享年二十五歳。
 ○女巡查現はれん、家出人保護機關に警視廳が新築中の積善寮は、工事がズン／＼進んだので、來年三月には日本最初の保護事業が開始されるので、専らその方面の任務に當るべき女巡查十五名を採用

空の勇士集
航空法違反
濱口氏薨去
空の誇り
悲惨な職業
可驚此無駄
横斷機失敗
神前結婚盛
苗代革命
飛機女校墜

○八月七日、英國の空の女王アミー・ジョンソン機はロンドン、東京間一萬二千キロを翔破し、本日立川着陸。○八月、米國の飛行家バードン・バンクボーン、兩氏はボストン記録を破るべく世界早廻飛行を企て、本日東京着陸。太平洋無着陸横斷を發表したが、航空法違反、要塞地帯影映違反に問はれ愛機を抑制する。罰金二千圓、日米間に飛行繼續許可の交渉行簡んだが九月二十日許可される。

○八月二十日、日本橋十思小學校訓導木内きやう子女史は北豊島郡志村第一小學校々長に榮轉。女小學校々長は之を以て嚆矢とす。

○八月二十六日、濱口雄幸薨去、帝大入院後三度手術を行ひ首相及民政黨總裁を辭任専ら回復に努めてゐたが遂に再び立つ能はず享年六十三歳。

○八月、日本の持つ空の誇りユンケルス氏三八型百人乗旅客機超重爆撃機は陸軍の依頼により三菱名古屋製作所で漸く完成。世界最大の陸上機で海のドックス號と並び稱される。

○九月一日、日本橋濱町優生病院では「職業的給血者を取次ます」と血を賣る新商賣の紹介部新設、輸血に用ふるのであるが血を賣る珍商賣の開業は之が嚆矢である。

○九月七日、全國の鐵道汽車辨當の食ひ残しは一ヶ年間に六百六十五石に達するので目下鐵道省では始末に苦心中。

○九月八日、アレン、モイルの米兩飛行家マツヂ號にて青森津代海岸より太平洋横斷無着陸飛行に出發したるも遂に行衛不明。八日後の十六日にカムチャツカ東北岸の無人島不時着陸の所をソヴェット漁船に救助される。

○神前結婚の流行、昨今、不景氣の影響を受けてか又は國民が眼覺めて来たのか、質素な神前結婚式が市中でも又地方に於ても流行して来た、同じ流行でも大いに歡迎すべきことである。

○九月、岐阜縣人小原與六氏の數年間に涉りて經驗したる改良稻苗栽培法は開關以來の苗代に革命を齎すものであると豫想する。

○九月十一日、神戸民潮社所有ハンザ單葉機はカフエ日輪の空中ビラ撒き中、神戸野田女學校の屋根に衝突、加藤、山口兩飛行家墜死、生徒通行人、四名負傷。

○九月十二日、佛國の世界的飛行家ル・ブリ、メスマン、ドレーの三氏ドレージエ・ユニオン號にて巴里東京間無着陸飛行の再擧を企て、十一日巴里離陸、夜半、ウラルの嶮を翔破空中爆破しル・ブリ、メスマンの兩氏墜死す。ドレー氏は落下傘で無事降下。

○九月、「空の大使」リンドバーク大佐夫妻は太平洋を大圏コースを経て飛行機で横斷し東京を訪問す。上海より南洋諸島を経て歸米、太平洋一週飛行を完了。○九月、獨逸女流飛行家エツツドル嬢、單身伯林より東京訪問飛行を企て豫定成功す。嬢は八日富士登山する、外人飛行家登山の嚆矢。○九月十一日、明治神宮司に一月兵衛大將は九月十日薨去したので、新たに有馬良橋大將任命せらる。○九月十一日、江木鐵相は三省廢合問題、行財政整理問題に關連し、病氣の理由を以て辭任す。濱口若槻兩閣の「智囊」と言はれただけに影響甚大。

○朝日ビルの空の燈臺、九月十一日から大阪名物が一つ増えた。朝日ビルヂングの屋上海拔六十三メートルの高所から五十三萬燭光の光力は遠く百キロに向つて毎夜放射される。

○九月、不景氣のため半年とか一年とかの定期が買えぬ勤人相手に省線定期券月賦販賣業者現はる。

○九月十六日、鐵道省に於ては、今回鐵橋の腐蝕箇所を電氣でつぎはぎする電氣溶接法に成功。これで緊縮で豫算は半減されたが安心して汽車を走らすことが出来る。

○九月十五日、上野動物園の象ジョンは、曲藝仕込のため入檻した石川次郎を突き殺した。

○九月十六日、西本願寺では數年來の懸案であつた有髮の女僧侶を認可。本日第一回の得度式が行はれ、女子大出も交つて二十三名の有髮女僧侶が出来た。

○九月十六日、減俸反對運動を起したイギリス大西洋艦隊ロードネア・ヴァリアント、號の水兵、午前八時に軍艦旗掲揚を行ひ、國歌を高唱、皇帝陛下萬歲三唱後一齊に就業を拒絶罷業を開始した。罷業は他の軍艦にも波及し示威的行動に出たもの十六隻に及ぶ。海相は大演習豫定の無期延期、即時軍港歸艦、減俸案考慮を聲明。其後平穩に歸したが、永き傳統を誇る英海軍も茲に一角は崩れるに至つた。

○九月十七日、岩手縣種鶏場の優良種は平均一ヶ月に二十五六個、一ヶ年最優のものは三百十個は確實に産卵する見込。東北地方でのレコード破りである。又近來全國的多産鶏は續出する。

佛機墜落
空の勇女登
山
リンドバーク夫妻來
明治神宮司
江木鐵相
空の燈臺
乘車券月賦
鐵橋電氣繼
象君番人殺
有髮尼始め
海向の風向
三百卵鷄續
出

第八編 今上陛下御代萬々歳

一八一

百貨店の凄
い抗争

振つた乗逃

混砂嚴禁

無肥料四石

危機一髮居
眠り列車

航内臺聯絡飛

農家負債調

○最近九月中の調査によると、深刻な財界不況をよそ目に帝都百貨店は今秋を期して一齊に新増築戦を開始するに至り、建坪総面積三萬九千坪を算すと云ふ。問題の百貨店對小賣商との商戦は轉じて大資本同志の百貨店同志の組打戦に轉向する新らしい形勢となつた。かくてこの秋からの百貨店は愈よ出て愈々烈しい商戦のもとに大衆の購買力に呼びかけられるに多忙だ。

○頗る振つた飛行機の乗逃げ、本月十日新潟市の山内田某は飛行機の乗逃げと云ふ最も先端的な處を實行して、所澤より長野間上田飛行場に到着したまゝ行方不明になつて了つた。

○十月一日、滋賀縣では縣令を以て本日より混砂搗白米の發賣を禁止す理由は榮養上悪いこと、無砂搗米より搗べりが多く國家經濟上國民保健上有害であることにある。

○無肥料で四石の作を取る、米子市役所農事課書記倉敷恒徳氏は市農會の試作田二反歩を借受け品種金光を絶對無肥料で試作した處一穗三百粒からの成績で、反四石以上收穫の見込みがついたと云ふ。

○咄々怪事居眠り列車、一日午前四時三分、東海道大船驛着の旅客列車が停車せず通過して了つた。驚いたのは大船の驛長、次の戸塚驛へ急報したので戸塚驛長も又驚きトッサに發電信號を上り線に裝置した。入つて来た列車は信號の音で、白川夜船とハンドルを握つた儘居眠つてゐた富田機關手も鹽谷助手も不覺の夢から醒めて大騒となつた。

○十月四日、定期航空路開拓の新飛行として多大の期待をもつて迎へられた日本航空輸送會社の畫期的壯舉たる内地、臺灣間聯絡エア・メルの試飛行は豫定のとほり陸上機雲雀號にて小川飛行士操縦、大森航空士、鈴木機關士、村島通信士同乗四日前五時五十七分勇躍して太刀洗出發、雲間をものゝ有明の月を浴び機首を南方にとり途中無電聯絡をなしつゝ鹿屋の上空をかすめて千五百キロを一氣に臺北指して處女航空の壯途に上つた、太刀洗出發後ひばり號は追風に恵まれ早くも三時臺灣島に入り豫定より約四十分早く午後三時十七分臺北練兵場に安着した、所要時間九時間二十分、かくて陸上機の試験飛行の往航は大成功を収めた。

○農家負債の内容、大正三年發行拙著「理想の村」四百九十八頁に舉げた大藏省の調査に據る農家負債九億四千萬圓餘（一戸當りの負債百八十圓）であつたものが、昭和四年帝國農會の調査する處では殆んど信ずることの出来ないほどに負債額が増加してゐる。勸業銀行（農業貸出）五億八千六百萬圓。

太平洋橫斷
成功

坂東大鐵橋
竣工

帝都乗合航
空綿發明

不合理極ま
る表決

秘密電話機

農工銀行（農業貸出）四億一千三百萬圓。普通銀行（農業貸出）三億六千萬圓。信用組合十六億一千萬圓。頼母子講金貸業者一般個人貸出し十三億五千萬圓。其他小貸出勘定六億萬圓で、これを合計すると四十九億三千萬圓となる。これを割ると結局一戸當り千圓近くの負債となる。生やさしい方法では償却の六割かしのことを指摘しておく。

○世界の飛行界に残されたたゞ一つの處女空太平洋無着横斷を完成すべく十月四日午前七時一分淋代海岸を出發したハロンドン、パンダボーン兩氏の單葉機ミス・ヴィードル號は快翔約四十一時間、見事に四百七十七マイルの航程を突破して太平洋海岸を距る實に百マイル以上の當ウエナッチー上空にその朱色の雄姿を現はしまづ着陸準備として殘餘のガソリンを機上から擲下し車輪無しの着陸に危険を避ける用意を行つた、次いで機體を下降せしめ濃霧たる砂塵を立てつゝ車輪を取去つた機腹を地上につけて見事に着陸し瞬時に傾斜プロペラを破壊し去つたが、無事に機體を停止せしめ兩飛行家とも故國の地上に歴史的な第一歩を印した。

○六月、群馬縣名和村八斗島と埼玉縣旭村山王道間をつなぐ大利根川に架する坂東大鐵橋工費百二十萬の工事竣工する。

○極めて最近に於て室内遊戯の發達したるものでは屋外遊戯としてのベビゴルフ流行し始めた。

○十月十七日、帝都乗合飛行會社は營業を開始したがそれ第一日の試飛行で失敗したまゝ一時中止

○十月、徳島市の松浦喜一郎は多年の研究なつて、菓を加工して綿のやうに拵へて西洋建築の保溫的好材料とすることに成功した。

○十月廿五日、昨今、ジュネーヴに開催されてゐる不戦聯盟理事會は滿洲問題についての討議數日數回を重ねてゐるが、遺憾なことには、彼等は日本立場、滿洲問題の本質を理解出來ず遂に十三對一で日本案を否決し、又其反對の數で不合理極まる理事會案を表決に了つた。即ち、十一月十六日まで、日本軍が鐵道附屬地帯へ撤退すべきことを日本政府に要請する案は日本を際く理事多數の意見として表明せられた譯である。十一月十六日迄休會の宣言をして散會した。

○十月二十五日、工學博士丹羽保次郎氏によつて秘密電話器は發明された、電線通話の上に一大革命を來らす偉大な貢獻である。

別府の大火
新大阪城竣工
教育者に勅語下る

宮崎大地震

新發田聯隊の犠牲

天津の支那兵暴虐

濫澤翁逝く

大日本生産黨生る

○十月廿八日、別府觀海寺大火、温泉旅館小松屋から出火折からの北風に煽られ、遂に同地旅館の大部分を焼失して了つた。損害三十七八圓なりと云ふ。

○十月、大阪城成る、鐵筋コンクリート工費三十八萬圓をかけたもの、五層八重の高樓は、豊公時代の豪華の實物を、髣髴たらしむるものがある。新しい大阪名物が又一つ殖えた。

○十月三十日、國民教育振興の使命の下に、明治五年東京師範學校の名を以て創立されてより六十年間、七千二百餘名の卒業生を出した。東京高等師範學校では、秋陽うららかな三十日午前、天皇陛下の行幸を仰いで、榮ある創立六十年記念式を舉行し、當日賜つた有難き勅語を松井校長は捧讀した。健全ナル國民ノ養成ハ一に師表タルモノノ徳化ニ竣ツ事ニ教育ニ從フモノ其レ奮勵努力セヨ

○十一月二日、宮崎市を中心に縣下一帯にわたり激震襲來し、長時間にわたつて上下左右に激動し、大木は根こそぎ揺れて物凄く倒れ、家屋の破壊する音、窓ガラスの破壊、煙突の倒壊など天地騒然を極め、宮崎測候所の記録によれば明治四十二年以來の激震である、負傷者縣下を通じて一千名を超え、死者、重傷者も相當多き見込である。

○十一月四日、馬占山軍の大敵を昂々溪方面に迎へ撃ちたる新發田聯隊は苦戰數時間にして敵を撃退せしめたるが遂に四十二名の戦死者を出した。

○十一月十一日、午前二時過ぎ支那街の電燈消ゆると見るや突如支那兵一齊に日本租界に向け猛烈な射撃を開始し、銃聲深夜の暗を貫いて物凄く響き渡り、我が軍は自衛上直ちにこれに應戰遂に日支兵交戦となつたが、約二時間にしてこれを沈黙せしめた。

○十一月十一日、明治大正昭和の三世に涉りて我が實業に貢献して多大なる功績を残されたる濫澤榮一氏は高齡九十二歳で逝く、それより先長き邊りでは濫澤子爵の國家に貢献した功勞を深く嘉みせられ特に正二位に陞叙の御沙汰があり、十日午後十一時五十分官内省大臣官房から市外瀧野川の同邸に特使を差し遣はされた、令嗣敬三氏は恭々しくこれを拜受し、直ちに病床の子爵にこの趣きを傳へたが家族一同は重ねての有難い聖旨に感泣した。

○十一月廿日、頭山滿翁を顧問に頂き内田良平氏を總裁として、大阪市に於て結黨式を擧げたる大日本生産黨は本日第一回大會を東京赤坂三會堂に開催した頗る盛況輿論を喚起した。(近世年代記大尾)

通俗
寫眞入

(文化、天候、弘化、福永、明治、大正、現代、文治、慶應)

近世文化年代記 かな索引

アの部

天野八郎(寫眞の九)。明石將軍、廣瀬中佐と日露戰役實況(寫眞の一六)。甘粕大尉(寫眞の一九)。麻生久(寫眞の二一)。跡見花蹊(寫眞の二二)。荒木寛畝(寫眞の一三)。歐米文化の影響(一)。王政維新(一)。阿部伊勢守(七)。安政の改元(三四)。阿部正弘(三五)。安政の大獄(三七)。會津城降伏(五二)。アイヌの習俗矯正(五七)。アンパンの始め(五七)。青山墓地の始め(五九)。仇討の禁止(六一)。青山御所成る(六四)。朝日新聞生る(七四)。厚司の始め(七八)。秋田市大火災(八五)。吾妻橋成る(八八)。秋田魁新聞生る(九三)。アプト式始まる(九四)。青森市大火災(九四)。青森線全通(九七)。足利の大火災(九八)。吾妻山噴火(一〇一)。有栖川宮(一〇四)。赤帽の始め(愛國婦人會生る(一一八)。足尾銅山暴動起る(一二八)。愛鷹丸沈没(一三九)。有坂砲發明者(一四一)。足尾の女房(一五四)。相對性原理(一五九)。有島某情死(一六〇)。甘粕大尉(一六〇)。荒川放水路(一六二)。朝日機歐洲飛行(一六三)。再加藤内閣成立(一六二)。東氏飛來(一七四)。青森縣柏村自治革新

イの部

井伊大老(寫眞の八)。板坂退助(寫眞の二二)。岩倉具視(寫眞の一〇)。岩崎小彌太(寫眞の二四)。伊藤博文(寫眞の一)。大養毅(寫眞の二〇)。維新の鴻業(四)。伊能忠敬(八)。醫女澤(一四)。一茶翁(一四)。石川雅望(一六)。一朱金鑄造(一八)。印旛沼開拓(二四)。醫女郷(二五)。井伊大老の英斷(三六)。愈々四港を開く(三七)。井伊大老暗殺(三八)。岩倉具視公(六四)。伊勢新聞(七二)。印刷局創始(七三)。育兒院の始め(七四)。伊侯渡歐(七八)。板垣退助(七九)。岩倉公(八〇)。茨城新聞生る(八三)。板垣退助授爵(八七)。新潟縣出雲崎町大火災(八七)。一年志願兵制(九一)。岩手日報生る(九八)。井上馨(一〇五)。石の巻大火災(一〇七)。板谷の大慘事(一一〇)。狩の大火災(一一〇)。巖手毎日新聞生る(一一四)。伊藤圭介(一一七)。伊勢大廟(一一八)。一位局(一二八)。岩下清周(一二四)。出雲艦歸來(一四三)。伊勢進水式(一四四)。板垣退

助(一四八)。池上會式(一四九)。生贖を賣る(一五一)。伊機飛來(一五二)。伊香保大火災(一五二)。伊豆大地震(一七六)。

ウの部

上杉鷹山(寫眞の六)。宇宙混同秘策(三)。浦賀防備(九)。上杉鷹山逝(一一)。歌川豊廣(一六)。宇田川玄眞(一八)。歌川國芳(三八)。梅のシロツブ(七一)。上野熊谷開汽車通(八二)。運河竣工(九五)。瓜生若子(一一〇)。浦鹽艦隊襲來(一二二)。ヴェルサイユの講和條約生る(一四七)。上野驛構内人事相談所始め(一五一)。浦鹽港撤兵(一五九)。兎かひの流行的歴史(一七七)。梅の節句提唱さる(一七八)。海向ふの風向(二八一)。

エの部

榎本武揚(寫眞の九)。江戸の風景(寫眞の七)。英國船來る(七)。英船又來る(八)。江馬江漢(八)。英船又々來航(一一)。英船助川來航(一一)。英船寶島に來る(一一)。英船又陸奥に來る(一一)。越後大地震(一四)。江戸の花(一五)。江戸大火災(一八)。英船又々來る(二〇)。英船警戒(二二)。英船又長崎來る(二六)。英船來る(二七)。英船來る(三三)。江川代官(三四)。江戸大地震(三四)。英艦來る(三三)。英公使來る(四五)。江戸を東京と改

オの部

奥元帥(寫眞の十四)。大山元帥(寫眞の一)。大鳥圭介(寫眞の九)。大村益次郎(寫眞の九)。大倉喜八郎(寫眞の十三)。大隈侯と來島恒喜(寫眞十二)。大杉榮夫妻と魔子(寫眞の二十)。大山郁夫(寫眞の二一)。大迫尙敏(寫眞の二二)。尾崎行雄(寫眞の二四)。大谷嘉兵衛(寫眞の二五)。小田原藩財政窮乏(一一)。太田錦城(一一)。大原國學(一九)。和蘭再警告(二七)。大森砲臺(三一)。大坂砲臺(三三)。大船製造(三三)。男山行幸(四一)。大阪兵庫開港(四八)。王政復古(四八)。大村益次郎(五三)。大阪造船局成る(五五)。大國隆正(五六)。小原鐵心(五八)。小倉服地の始め(五九)。オルガンの始め(六三)。奥州御巡幸(六八)。大久保

暗殺(七三)。沖繩縣の始め(七四)。大阪の大火災(七六)。大隈伯下野(七七)。岡山監獄焼失(八〇)。大阪商船生る(八一)。往復ハガキの始め(八三)。大坂大洪水(八四)。大阪事件(八六)。歐洲彫刻の始め(八七)。大阪毎日新聞生る(八九)。音樂學校始め(八九)。大久保一翁(九〇)。小濱の大火災(九〇)。大阪朝日新聞生る(九一)。大分新聞生る(九一)。大隈侯遭難(九三)。大津事件突發(九六)。御茶水橋成(九七)。大島公使に發砲(一〇二)。小樽市大火災(一〇八)。御茶水慘殺事件(一一〇)。御歌所管制(一一一)。大木喬任(一一五)。大阪時事新報生る(一二五)。奥羽線全通(一二六)。鬼權殺さる(一三〇)。大阪大火災(一三〇)。大隈内閣成る(一三九)。女祖學始め(一五一)。大本教問題(一五三)。女踏切番殉職(一五四)。恩賜公園(一五五)。大隈侯薨去(一五六)。大吹雪軍隊出動(一五六)。お蝶歸人歸る(一五七)。大暴風雨襲來(一五八)。鷗外博士(一五八)。鬼熊の出現(一六六)。女巡査(一七九)。女小學校長始め(一八〇)。驚可き無駄(一八〇)。横斷飛行失敗(一八〇)。大阪城成る(一八六)。

カの部

蒲生君平(寫眞の七)。加藤高明(寫眞の十三)。桂太郎(寫眞の一四)。鎌倉幕府(二)。革新(三)。外國船の航來(三)。頑迷なる幕史(三)。革

晋國物語(七)。關白新任(二)。外船打拂令(一三)。貨船改造(一五)。狩野披齋(一九)。柏崎の一揆(二〇)。華山長英等捕はる(二一)。華山自殺(二二)。海防嚴命(二三)。學問所再興(二三)。弘化改元(二五)。學習院(二五)。海防外交奏上(二七)。海防勅命(二七)。嘉永改元(二八)。葛飾北齋(二九)。海防勅諭(三〇)。甲比丹江戸に來る(三一)。硝子の始め(三四)。各國修交成(三六)。開港延期(三八)。和宮御降嫁(三九)。關東に勅使下る(四〇)。外國船砲撃(四二)。關白齋敬(四三)。元治と改元(四三)。開陽丸廻航(四七)。外人競馬始め(四八)。外臣朝見始め(五〇)。官軍江戸城入(五〇)。河井繼之助(五一)。樺太開拓使(五四)。外債の始め(五四)。鑛詰の始め(五五)。華族と平民の結婚(五六)。官吏月給の始め(五七)。學校運動場の嚆矢(五七)。課税の公平(五七)。學制の公布(五九)。瓦斯の始め(六〇)。各地の暴徒(六二)。海軍練習所替の始め(六五)。河北新聞の始め(六六)。官吏の營業(六七)。會議御親臨(六七)。官吏懲戒令(六八)。海南新聞生る(七〇)。神田の大火(七三)。華族學校(七三)。學士會院始め(七四)。懷中日記始め(七四)。神田大火災(七六)。開拓使官有物拂下事件(七七)。鹿兒島新聞生る(七七)。開拓使廢止(七八)。改進黨生る(七八)。改造道路始め(八〇)。官報創め(八〇)。掛塚の大火災(八一)。海底電線成る(八一)。華族令制定(八二)。加波山事件起る(八

三。甲州谷村大火(八三)。海水浴始め(八四)。華族女學校(八四)。看護會始め(八五)。改進黨大會(五八)。海防警備(八六)。鐘紡生る(八七)。カツエの始め(九〇)。會計検査院成る(九二)。關西行幸(九四)。火災保險の始め(九四)。外務大臣引責(九七)。鹿兒島毎日新聞生る(九七)。神田大火災(九八)。關東大演習(九九)。川上の渡歐(一〇〇)。牙山の戦ひ(一〇二)。海洋島の大戦(一〇三)。戒嚴令施行(一〇四)。蓋平城占領(一〇四)。假名書魯文(一〇四)。活動寫眞の始め(一〇七)。勸業創業(一一〇)。川開の惨事(一一一)。關門連絡始め(一一四)。勝安房(一一四)。關稅法(一一五)。川上操六(一一五)。感化法其他(一一六)。昔公年祭(一一九)。カルタ課税(一九)。歌劇の始め(二〇〇)。外債成る(二二三)。海上占領(二四)。上村艦隊(二四)。カキ色軍服の始め(二四)。ガード式記帳(二五)。樺太軍上陸(二六)。凱旋艦隊伊勢大廟參拜(二六)。同觀艦式(二六)。樺太廳開設(二七)。海軍記念日(二七)。樺太神社(二七)。各國哀愁(二七)。柱内閣成る(二七)。柱公(二七)。カチユシヤ(歌)流行(二九)。岩越西線通(二四)。海上飛行機墜落(二四)。監督不行届(二四)。簡易保越始め(二四)。華族法令(二四)。株式界騒ぐ(二四)。外交調査會(二五)。簡易食堂始め(二七)。開墾助成法(二七)。ガソリン(二七)。金澤の大火災(二七)。寛城子事件(二八)。神近市子(二九)。華奢を戒む(二五)。瓦斯疑獄(二五)。神戸大罷工(二五)。加州排日慘

天覽(八二)。矯風の始め(八六)。禁酒會生る(九四)。貴族院選舉始め(九五)。教育勸語下る(九五)。議事堂焼く(九六)。經木眞田(九七)。議會停會(一〇〇)。議會解散(一〇〇)。銀婚式(一〇二)。記念切手始め(一〇二)。金玉均暗殺(一〇〇)。休戦條約(一〇五)。京都に還幸(一〇六)。救世軍來る(一〇七)。北白川宮(一〇七)。京都新聞生る(一〇九)。金貨本位(一〇九)。京都市行幸(一一〇)。京都帝大成る(一一〇)。汽車大格事(一一一)。議會又解散(一一二)。議會解散(一一三)。議會再度開く(一一四)。教育費補助(一一五)。義和團事件(一一六)。今上御誕生(一一八)。議會解散(一一九)。教科書事件(一二〇)。北白川宮銅像(一二〇)。議會再度の解散(一二二)。議會再度開く(一二四)。金銭登録器(一二八)。漁獲發動機の始め(一二八)。氣球隊設置(一二八)。禁煙車の始め(一二三)。九州帝大成(一二三)。九州大演習(一三四)。義人正造(一三六)。議會停會(一三七)。局長刺殺(一四三)。宮中參入服(一四三)。議員の瀆職(一四三)。議場大混亂(一四三)。宮中御慶事(一四三)。教育振興(一四三)。金輸出禁止(一四五)。桐野炭坑(一四五)。休戦條約(一四六)。岐阜縣八幡町の大事件(一四八)。今上陛下外遊(一五四)。宮中御慶事(一五八)。教育界美談(一五八)。共産黨事件(一六〇)。清浦内閣(一六〇)。議會解散(一六〇)。議事堂燒失(一六三)。京大事件起る(一六五)。木崎村争議(一六六)。銀行救済費(一六七)。宮中御慶事(一六九)。金解禁建議(一六九)。共産黨首死(一六九)。金

(二五五)。歌舞伎座燒失(二五五)。海軍軍縮會議(二五五)。加藤友内閣成立(二五八)。監獄の改名(二五九)。關東大震災大火災(二六〇)。加藤内閣(二六一)。片岡弓八郎(二六三)。關東豪雨襲來(二六三)。香川縣金藏寺小作争議惡化す(二六六)。解散デモ官吏減俸不成立(二七一)。海軍の不満(二七四)。柏村自治革新策(二七五)。カフエ全盛(二七七)。關東強震(二八三)。

キの部

宮城概況(寫眞の四)。清川八郎(寫眞の八)。木戸孝允(寫眞の二〇)。金玉均(寫眞の二二)。議事堂(新) (寫眞の二〇)。銀座三越及松屋前(寫眞二二)。驚異的革新(五)。氣海觀瀾(二七)。二名著成(二七)。義眼の始め(一四)。巨砲鑄造(二七)。義人大躍起つ(一九)。救助小屋(二〇)。旭翁(二二)。氣海廣義刊行(二八)。牛痘の渡來(三〇)。禁裡守護職(四二)。清川八郎暗殺(四三)。牛乳の始め(四四)。金庫の元祖(四五)。義脚使用の魁(四九)。宮中肉饌の始め(五〇)。京都還幸(五二)。京濱郵便始め(五六)。紀州ネルの始め(五六)。共同便所始め(五七)。梟刑者の處分(五七)。キルクの始め(六一)。宮城大火(六二)。金庫公債發行(六九)。京阪鐵道成る(六九)。木戸孝允(七一)。梟刑廢止(七四)。勤儉の詔勅(七四)。記念祭記(七一)。梟刑廢止(七四)。勤儉の詔勅(七四)。記念祭記(七一)。梟刑廢止(七四)。勤儉の詔勅(七四)。記念祭記(七一)。

クの部

久坂玄瑞(寫眞の一〇)。黒岩涙香(寫眞の十三)。國定忠次(三〇)。軍艦教授所(三五)。國臣殺さる(四四)。俱樂部の始め(六〇)。クリスマスの始め(六五)。勳章條例(六七)。熊本城包圍さる(七〇)。區町村會の始め(七四)。グランドストーン來朝(七四)。空氣枕始め(七五)。軍人に勸諭下る(七八)。軍用鳩の始め(八六)。熊本大地震(九三)。群馬縣神川村大火災(九八)。郡司大尉の壯舉(一〇〇)。軍國議會(一〇四)。熊野新報生る(一〇九)。栗本鋤雲(一〇九)。軍族保護法(一一五)。黒田清隆(一一七)。クリーニングの始め(一二八)。國を擧げて驚愕(一二六)。郡制廢止(一六〇)。悔みても餘りある(一六〇)。軍縮條約(一七六)。軍縮の波及(二七七)。群馬縣旋風(一七九)。

ケの部

建武中興(二)。刑政總類(三)。月照と隆盛(三七)。慶喜と春嶽(三八)。慶應と改元(四四)。慶喜大阪下(四八)。慶喜恭順(五〇)。遣外使臣始め(五

四。京濱鐵道の始め(五八)。藝者のストライキ(六二)。警視廳始め(六四)。憲法取調始め(六九)。減租の詔下る(七〇)。結婚紹介所の魁(七〇)。競馬會の始め(七四)。刑法制定(七五)。憲法の始め(七六)。縣會解散の魁(七九)。藝備日々新聞生る(九一)。憲法發布(九一)。憲法發布記念章(九三)。警官帶劍制(九三)。元老院(九五)。京濱の地震(一〇二)。元帥府設置始め(一一三)。京釜鐵道全通(一二五)。競馬の始め(二九)。憲法發布記念(一三〇)。憲政擁護の大運動(一三七)。慶大病院始(一五二)。建國祭舉行(一六五)。健康法實施(一六六)。警廢と暴民(一六六)。劍劇流行す(一六八)。減給始め(一七三)。減俸反對(一七九)。

ロの部

御宸筆(寫眞の二)。御尊影(寫眞の三)。河野廣中(寫眞の十三)。後藤新平(寫眞の十四)。國家の經綸(一)。國家の政事(五)。御踐祚(七)。栲亭(七)。虎疫流行(一一)。皇朝史略創刊(一一)。老中更迭(一一)。近藤重藏(一五)。權大納言(一七)。網紀弛廢(一七)。御踐祚式(二七)。孝明天皇御即位大禮(二八)。護國大明神(三一)。混砂嚴禁(三一)。國旗定る(三三)。高官任命(三五)。國情奏上(三五)。皇太后册立(四七)。五箇條誓文(五一)。近藤勇(五一)。御即位の大禮(五二)。公議所設置(五二)。國産靴の始め(五四)。滑稽な姓名始め(五四)。御親兵の始め(五六)。國産

工場法施行す(一四四)。米騒動突發(一四六)。講和全權(一四七)。焦村澤山(一七二)。五大疑獄(一七三)。國民と軍部(一七三)。高率操短始(一七四)。國技館成る(一五〇)。國鐵委員選(一五二)。國際オリムピック(一五二)。國勢調査(一五二)。五大ボート(一五二)。皇太子攝政(一五六)。幸運のハガキ(一五七)。國民黨解散(一五六)。コレラ病流行(一五九)。護憲内閣成る(一六一)。小作調停法(一六一)。小作官設置(一六一)。御大葬(一六七)。國際進出(一六八)。公益質屋法(一六七)。五十三議會(一六七)。五十四議會(一六八)。青年團御親閱(一七六)。國勢調査(一七六)。孤島大爆發(一七八)。航空法違反(一八〇)。獄中通信(一八三)。混砂嚴禁(一八四)。昂ハ溪の犠牲(一八六)。

サの部

佐久間象山(寫眞の八)。西郷南洲(寫眞の一一)。坂本龍馬(寫眞の二〇)。堺利彦(寫眞の二三)。讒言怨訴(一)。左大臣叙(一〇)。二宮尊徳櫻町任法委任條件(一〇)。山陵志成る(一一)。作左衛門捕る(一四)。酒井抱一(一五)。祭禮華奢禁(一一)。佐藤信淵(三〇)。鎖國派蟄居(三七)。最初の使節(三七)。坂下門の變(三九)。最初の紡績工場(三九)。最初の留學生(四一)。再勅使下る(四一)。參與衆を置く(四三)。薩長握手成る(四七)。坂本龍馬(四八)。勇の首級三條河原に梟す(五一)。酒造税の始め(五一)。最初の中學(五五)。參議暗殺(五五)。最初の軍旗式(六四)。

石油の始め(五七)。國産セメントの始め(五七)。近衛兵の始め(五八)。國立銀行條例(六一)。公園名稱始め(六一)。五節句を廢す(六三)。江華島事件(六七)。高女師範學校(六八)。甲府日々新聞生る(六八)。小僧散髮首となす(七〇)。コレラ病流行(七一)。御巡幸(七三)。皇室御慶事(七四)。國會請願(七五)。工科大學の元祖(七七)。國會詔下る(七七)。五圓紙幣生る(七八)。神戸又新新聞生る(八二)。公證人の始め(八五)。金剛石の歌(八六)。ゴム印の始め(八七)。國粹黨生る(九一)。航空隊生る(九三)。國民新聞生る(九四)。興信所の始め(九八)。コロトの流行(九八)。小包法開始(九九)。國民協會生る(九九)。國王拜謁(一〇二)。紅丸塞大戰(一〇四)。小松宮殿下(一〇五)。講和詔勅下(一〇六)。濠洲航路始め(一〇八)。鑛毒事件起る(一〇九)。後藤新平(一一〇)。神戸新聞生る(一一三)。高等實業中學校令(一一四)。公有地稅免(一一六)。五師團凱旋(一一八)。小松宮渡歐(一九)。國交斷絶(一二二)。國民大會燒打騒ぎ(二六)。御降家(二七)。子供博覽會(二七)。國技館始め(三〇)。高架鐵道始め(三三)。公式飛行(三三)。小倉の大火災(三三)。小村侯(三四)。皇后陛下身を以て御平癒を祈らせられる(三六)。ゴルフとジゴマ流行(三六)。御大禮議會(三六)。五人殺し(三八)。皇太后陛下崩御(三九)。皇太后御大葬(四〇)。五歳の法主(四〇)。御即位大典(四三)。國士頭山翁(四四)。皇太子册立(四四)。國技館燒く(四五)。

佐賀の亂(六四)。産婆教育の始め(六九)。西郷軍の出發(七〇)。參謀本部創立(七三)。山陽新聞生る(七四)。最後の仇討(七六)。産婆の留學生(八六)。散髮師よりも泥棒が増し(八八)。三條内閣成る(九三)。三條公(九七)。再度の總選舉(一〇三)。三國干渉來る(一〇六)。三陸大海嘯(一〇八)。佐渡の大火災(一一〇)。佐渡新聞生る(一一一)。稅所篤子(一一六)。最初の自動車(一一六)。産業組合法(一一六)。西郷從道(一一九)。最初の入獄(一二三)。西園寺内閣成立(一二七)。在郷軍人會始め(一二八)。財界の大恐慌起る(一二九)。佐久間艇長(一三一)。濟生會生る(一三三)。山陰線全通(一三四)。最後の行幸(一三五)。西園寺内閣倒(一三七)。三十議會開(一三七)。三十一議會(一三九)。櫻島噴火(一三九)。西國大暴風(一四〇)。山東軍活躍(一四〇)。三十五議會開(一四一)。三十六議會開(一四三)。催涙ビストル(一七三)。財界恐慌(一七四)。最初の征服者(一五五)。産業債券令(一六〇)。三黨主妥協(一六六)。山東出兵(一六七)。三一五事件(一六七)。山東出兵聲明(一六七)。堺利彦飛ぶ(一七八)。三百万鶏續出(一八一)。

シの部

島津齊彬(寫眞の五)。彰義隊(寫眞の五)。島田三郎(寫眞の十三)。洗澤子爵(寫眞の二五)。下田歌子(寫眞の二二)。順逆の大勢(二二)。市町村制發布(四)。條約改正(五)。市井の

鎮事(五)。式亭三馬(一〇)。蜀山人(一一)。シーボルト
來る(一二)。新金鑄造(一二)。治濟准大臣宣下(一三)。龜
田鵬濟(一三)。十返舎一九(一六)。植物啓成成(一八)。
諸國大饑饉(一八)。將軍退職(二〇)。將軍宣下(二〇)。
光格上皇崩御(二二)。將軍薨去(二三)。自然堂(二五)。
信州大地震(二七)。品川砲臺策(二九)。寫眞の始め(三
一)。將軍家慶(三三)。將軍家定(三三)。松蔭捕はる(三
三)。象山捕はる(三三)。諸侯閉國觀一致(三三)。品川砲
臺(三三)。將軍宣下(三三)。條約勅許奏請(三五)。將軍
軍家定(三六)。島津齊彬(三六)。將軍繼位定(三六)。將
軍上洛(四一)。將軍奏上(四三)。象山刺さる(四三)。將
軍家茂(四五)。征長軍停止(四五)。將軍宣下(四五)。シ
ヤツの始め(四五)。將軍職奉還(四七)。彰義隊(五一)。
酒造税の始め(五一)。諸國關門廢止(五一)。新聞刊行
(五二)。諸藩奉還(五三)。昌平校の改稱(五四)。新船
法成る(五四)。品川燈臺(五四)。新律綱領成(五五)。自
轉車始め(五五)。種痘の普及(五四)。人力車の發明(五四)。
司法省始め(五六)。消防ポンプの始め(五六)。新島原廢
止(五六)。女人禁制(五八)。庄屋名主廢止(五九)。女子
斷髮禁止(五九)。新吉原の内容(五九)。身代限り規則
(五九)。銃刑の始め(五九)。新銀座成る(五九)。地所賣
買を許す(五八)。信濃毎日新聞生る(六五)。神前結婚の
魁(六七)。新聞條例(六七)。上等裁判所(六七)。巡査
の始め(六七)。新聞小説魁(六八)。直訴の元祖(六八)。

風連の變起る(六九)。寫眞の流行始め(七一)。紙幣疑獄
(七五)。正金銀行(七五)。集會條例(七五)。消費組合の
元祖(七五)。自由黨生る(七八)。士族に授産(七八)。時
事新報生る(七八)。社會黨の魁(七九)。商工業會議所生
る(八〇)。庄内新聞生る(八二)。支那料理(八一)。下野
新聞生る(八一)。人造氷の始め(八一)。巡査の帶劍始め
(八一)。南大元祖。商業講習所生る(八一)。商標條例
(八一)。自由黨解散(八二)。人造肥料の笑話(八二)。新
大橋成る(八三)。女子師範遠足會嚙矢(八三)。女醫魁(八
三)。女學生洋服の始め(八四)。除蟲菊の始め(八四)。所
得税始め(八六)。條約改正(八六)。上毛新聞生る(八七)。
島津久光(八八)。自治制公布(八九)。新愛知新聞生る
(九〇)。新派劇創始(九〇)。静岡市大火災(九一)。新法
二公布(九四)。芝三田大火災(九四)。商法公布(九四)。
執達吏職務(九四)。衆議院總選舉(九五)。社會問題研究
會(九五)。清國艦隊威嚇(九七)。下野日々新聞生る(九
八)。静岡市大火災(九八)。静岡民友新聞生る(九九)。信州
岡新報(一〇〇)。初代厩橋(一〇一)。條約改正(一〇二)。信州
飯田大火災(一〇二)。清國出兵(一〇二)。償金二億兩(一〇
六)。新發田大火(一〇六)。進歩黨成る(一〇七)。自由黨政府
提携(一〇七)。女子判任官(一〇八)。新宮町(和歌山縣)大
火災(一〇八)。上州新報生る(一〇八)。神前結婚魁(一一〇)。
收入印紙法(一一四)。市開廳式(一一四)。十四回議會(一一
五)。自由廢業魁(一一五)。品川子爵(一一六)。小學生保護

(一六)。和製業書(一七)。常總新聞生る(一七)。女子大
學成(一七)。社會民主黨(一八)。新要塞(一八)。自動車
輸入始(一八)。食堂車の始め(一八)。自動車の始め(一
九)。神職懲戒令(一九)。十六議會(一八)。淳宮御誕
生(一九)。信用保險始(二二)。女子判任官嚙矢(二七)。
實業の世界生る(二九)。女優養成始め(二九)。支那の日
貨排斥(三〇)。清國革命起る(三四)。清朝亡ぶ(三五)。
小學生溺死(三三)。重松中尉慘死(四〇)。シーメンス
事件(四〇)。暹王來朝(四一)。親露意見(四三)。首相要
擊(四四)。神宮地鎮祭(四四)。小紙幣發行(四五)。商船
坐礁(四四)。女學生出る(四四)。島村抱月(四六)。自動
車取締(四七)。西伯利亞出兵(四七)。四十一議會開(一
四七)。下關東京間マラソン(四八)。志自岐沈没(四八)市
營食堂成(四九)。市營浴場成(四九)。新聞社のストラ
イキ(四八)。小學生犠牲(四八)。人事相談所(四九)。私
大學士出現(五〇)。新婦人會成る(五一)。四十三回議會
解散(五一)。新乘換券(五一)。職業紹介所(五二)。社會
同盟(五二)。市會議員疑獄(五三)。神女同盟(五三)。四
十三議會(五二)。新宿大火災(五四)。市營水泳場(一五
五)。女教諭嚙矢(一五六)。神宮紀念祭(一五六)。四十五議會
(一五六)。ジョ元帥來(一五六)。新聞展覽會(一五七)。四十六
議會(一五九)。上奏問題解決(一五九)。四箇師團廢止(一六
二)。自動車の生命(一六五)。新法令公布(一六五)。神宮體育
大會(一六七)。社會民衆黨成(一六六)。震災手形法(一六七)。

消費組合(一六七)。諸名士逝く(一六八)。支那兵暴虐(一六
八)。思想善導掛(一六九)。深夜業廢止(一七〇)。四一六事件
(一七〇)。新勞農黨生る(一七一)。清水時開通(一七二)。市電總
罷業(一七三)。省電大衝突(一七四)。震災記念堂落成(一七
四)。首相狙撃(一七六)。失業者の襲撃續出(一七八)。自
由廢業(一七八)。支拂猶豫(一七九)。少年航空隊(一七九)。神
前結婚(一八〇)。思想對策(一八一)。新發田聯隊犧牲(一八
六)。澁澤翁薨去(一八六)。
スの部
杉田玄白(寫眞の七)。杉田玄白(七)。菅茶山(二)。助川
に砲臺築く(一九)。水交社生る(七四)。水産會生る(七
八)。水産大博覽會(八〇)。相模天覽(八二)。樞密院設置
(八九)。洲崎遊廓開業(九〇)。スマス來る(一四四)。須摩
子自殺(一四七)。スキー流行始め(一五〇)。水平社事件(一
六〇)。スポーツ流行(一七七)。角力道新進(九三)。水難救
濟會(九三)。水力電氣の始め(九四)。水産講習所(一〇
九)。墨の貞操帶(一一一)。
セの部
西南戰爭(寫眞の一〇)。攝政宮殿下(寫眞の一四)。誠忠無
二の忠臣(二)。世想を知る絶好資料(五)。五箇條の御誓

文と億兆安撫の詔(一六)。西洋産科の始め(一六)。仙石騷動(一九)。西洋兵書刊行(二二)。政事改革令(二三)。西洋砲術を許す(二三)。西洋薬の始め(三五)。石版の始め(四八)。政治始式(五二)。小楠暗殺(五二)。小學校の始め(五三)。招魂社成る(五三)。遷都被仰(五三)。戦功褒賞(五三)。石炭の始め(六〇)。征韓論の爆發(六三)。西洋紙の元祖(六五)。石鹼を奨励する(六五)。石鹼奨励(六五)。西南戦争(六九)。赤十字社始め(七〇)。清涼水の流行(七一)。西南戦争軍費(七五)。西洋釘の始め(七七)。生命保険始め(七七)。政黨有害論(八〇)。節酒會生る(八三)。專賣條例(八三)。責任内閣成る(八四)。政教社生る(八九)。政友會先祖(九五)。精工舎始め(一〇〇)。製鐵費詔勅(一〇一)。戦宣布告(一〇三)。西洋釘國産(一〇八)。西洋書科始め(一〇八)。製鋼所成(一〇八)。政黨内閣始(一一三)。政友内閣成(一一七)。雪中犠牲(一九)。選挙名簿(一九)。宣戰(對露)布告(二二)。戦捷祝賀會(二二)。三。潜航艇隊成(二五)。精米機(二八)。西洋式造花(二八)。政友會大會(二三〇)。セル榜の始め(三二)。先帝進號(三三)。生蕃來る(三三七)。製繩機械(三三七)。前將軍薨(三九)。世界大動亂の始め(四〇)。青島攻撃(四〇)。青島の犠牲(四〇)。青島砲撃(四一)。青島陥落(四一)。政府彈劾案(四三)。製鐵疑獄(四六)。仙臺大火災(四七)。世界戦争の犠牲調べ(四七)。青年に令旨を賜ふ(五三)。鮮人結社(五三)。青年團大會(五八)。節約デー(五八)。

ソの部

尊王開國運動(三)。尊徳櫻町下(二)。尊徳の斷食(一五)。總領事ハルリス來る(三四)。族藉名稱定る(五三)。僧侶の食内帯妻の解禁(五九)。早大生る(七九)。速記術創始(七九)。相馬事件起る(一〇一)。總選挙死傷(一〇一)。増税の始め(一〇八)。孫文來る(一三八)。宗教仁暗殺(一三八)。早大紀念祭(一三八)。増師案可決(一四三)。總選挙(一四五)。倉庫爆發(一四五)。總選挙成果(一五二)。早慶復活戦(一六三)。總選挙の成果(一六八)。即位の大典(一六九)。空の勇士集(一八〇)。空の女王(一八〇)。空の勇女登山(一八一)。空の燈臺(一八一)。象君番人殺(一八一)。

タの部

大名行列(寫眞の五)。高山彦九郎(寫眞の七)。高杉晋作(寫眞の七)。大地震と大火災(寫眞の一七)。高橋是清(寫眞の二一)。明治大帝御降誕(三)。大狂瀾時代(四)。大日本史成(八)。相馬大作(一一)。大政大臣(一四)。高田屋嘉

兵衛(一四)。大久保忠貞(二〇)。大グーデター(二一)。谷文晁(二二)。爲永春水(二三)。忠邦再任(二五)。忠邦罷免(二五)。忠邦被罰(二五)。瀧澤馬琴(二八)。丹鶴叢書(二八)。高野長英(三〇)。大日本史献上(三一)。高杉晋作(四四)。武田耕雲齋(四四)。高杉晋作(四七)。大政奉還を勧む(四七)。大政官々制(四九)。大政官日誌(五〇)。待詔局設置(五二)。斷髮脱刀令(五六)。高松騒擾(五六)。男女混浴禁止(五八)。太陽歴の採用(六〇)。臺灣事件(六二)。臺灣征討(六五)。大審院設置(六六)。高山町(岐阜縣)大火(六七)。煙草に課税(六八)。男子成年令(六八)。帯刀嚴禁(六八)。高崎の大火(七三)。竹橋騷動(七三)。大暴風雨(七五)。大日本農會の始め(七六)。高岡市大火災(七九)。大早魘(八一)。兌換券條例(八一)。ダンス教授の始め(八二)。高崎市大火災(八五)。大同團結成る(八七)。太平洋横斷成功(八五)。第三回博覽會(九二)。第一回帝國議會(九五)。第二回議會(九七)。第三回議會(九八)。大蘇芳年(九九)。伊達宗城(一〇〇)。第六議會(一〇一)。第二軍上陸(一〇四)。大平山の戦(一〇五)。第八議會(一〇四)。高崎大火災(一〇六)。臺灣受領す(一〇七)。拓植務省(一〇七)。大元帥陛下凱施(一〇六)。大赦と保護(一〇九)。田子浦大海瀾(一一五)。大正天皇(一一六)。田中翁直訴(一一八)。第二軍上陸(一二三)。第三軍上陸(一二三)。煙草專賣始め(一二四)。太平洋艦隊全滅(一二四)。大觀兵式(一二七)。拓殖銀行始(二八六)。大逆事件判決

チの部

畫家千春(一三三)。町會所改革(一九)。長州征伐令下る(四四)。長州再征(四五)。長藩主糾問(四五)。長藩命塾居(四五)。中外新聞創(五〇)。徴兵規則(五五)。勅使二藩下る(五五)。鎮臺創設(五六)。地方官拜謁(六二)。地租改正(六二)。貯金の始め(六六)。千島樺太交換(六七)。中外醫事新報生る(七四)。地方官會議(七五)。儲畜

法制定(七五)。朝鮮に暴徒(八二)。鎮守府始め(八三)。秩父暴動(八三)。鎮守府設置(八五)。地方官制度(八五)。蓄音器の始め(八五)。地震研究(八六)。地方電話の始め(八九)。中外商業新報生る(九一)。中央新聞生る(九七)。中國新報生る(九九)。中國民報生る(九九)。千嶋艦沈没(一〇〇)。直訴を企つ(一〇〇)。朝鮮風雲急(一〇二)。中央公論生る(一〇九)。智利硝石(一一一)。長英等贈位(一一四)。長距離開通(一一四)。著作權法(一五〇)。治警法發布(一一六)。畜犬規則(一二〇)。直通列車(一二六)。朝鮮と滿洲(一二七)。朝鮮併合(一三二)。朝鮮總督府置く(一三二)。朝鮮總督暗殺企(一三五)。長距離飛行(一四一)。畜産博の始め(一五四)。中央倉庫(一六六)。張作霖爆死(一六八)。治安警察法改正(一六八)。

ツの部

鶴屋南北(一六)。豆相沿岸視察(二一)。恒子の自殺(一五五)。鶴見亂闘(一六三)。ツエ伯號來る(一七〇)。

テの部

寺内元帥(寫眞の二二)。天保改元(一六)。天保山成る(一六)。天保錢生る(一九)。天保の改革(二〇)。東海道渡舟賃(二六)。天皇崩御(二七)。丁抹船來る(二七)。寺

トの部

東郷元帥書國歌(寫眞の一)。東郷元帥(寫眞の一)。頭山滿(寫眞の二三)。東京大地震火災地圖(寫眞の一四)。德富蘇峰(寫眞の一九)。鳥追お松處刑(七一)。畫家豐國(一二)。歌川豊春(一四)。富籤興行(二一)。德川慶喜公(二七)。土佐當宇(三一)。東湖壓死(三四)。唐人お吉(三五)。東禪寺亂入(三八)。十津川と生野の義舉(四三)。特赫ある(四七)。討幕密勅下る(四七)。烏羽伏見の戦争(四九)。東征軍出發(四九)。德川征討(四九)。德川處罰(四九)。德川慶喜遁る(四九)。德川氏封給ふ(五一)。東京行幸(五二)。東京灣燈臺の始め(五二)。徒形所設置(五二)。時計の元祖(五四)。明治五年度東京の人口(八五)。東京日々新聞生る(五八)。動物園の始め(五八)。屯田兵制度(六五)。東京(九年)の人口(六八)。東洋自由新聞生る(七六)。東北御巡幸(七七)。土陽新聞生る(七七)。動物園成る(七九)。鳥取市大火災(七九)。富山市大火災(八〇)。陶々亭生る(八一)。東京朝日新聞生る(八二)。東京電燈始(八六)。東京紡績始め(八六)。東北日報生る(九〇)。德嶋新聞生る(九〇)。德嶋日々新聞生る(九〇)。土地臺帳成る(九三)。十津川山崩れ(九三)。鳥取新聞生る(九二)。東海道線全通(九三)。東京灣汽船(九三)。土耳古軍艦沈没(九六)。陶標札發明(九九)。德嶋の惨害(九九)。東學

田屋騒動(四〇)。孝明天皇(四五)。天皇御元服(四九)。天保山行幸(五〇)。天長節(五二)。電信通開始め(五三)。電話の渡來(七一)。帝政黨生る(七八)。鐵道馬車始(七九)。天氣豫報(八〇)。帝政黨解散(八一)。天誅組盟約書(八一)。天保錢通用止め(八二)。天津條級(八二)。鐵管水道始め(八四)。遞信省設置(八四)。天理教祖(八六)。天理教普及(八九)。電車の始め(九〇)。丁汝昌降る(一〇五)。田庄臺(一〇五)。日露協約(一〇八)。鐵管事件(一〇八)。帝國圖書館成(一一〇)。新潟騷擾起る(一一一)。日本ロビンクル物語(一一一)。店頭新陳列(一一二)。日鐵罷業勝利(一一三)。奠都祭(一一三)。臺灣日々新聞生る(一一三)。電氣時計の發明(一二〇)。定洲占領(一二二)。敵將負傷(一二一)。デパートの始め(一二四)。警肉事件(一二五)。電車焼打(一二七)。出齒龜の由來(一二九)。鐵道青年會生る(一三一)。銚子無電成る(一二九)。帝國劇場の始め(一三二)。銚子の大嵐(一三一)。展望車始め(一三三)。電車事業法(一三四)。電車市營(一三四)。電車罷業(一三四)。電氣機關始め(一三七)。天理教檢舉(一四三)。殿下御訪露(一四四)。帝國議會解散(一四五)。寺内内閣成る(一四五)。帝大購買組合(一四九)。帝國ホテル大火(一五〇)。帝ホ全焼(一五七)。電療機發明(一五八)。殿下留學(一六二)。殿下御歸朝(一六七)。電車頭覆(一六八)。電送寫眞始(一六八)。帝都復興祭(一七三)。鐵橋電機機(一八一)。帝都乗合航空(一八一)。天津支那兵の暴虐(一八六)。

ナの部

黨鋒起(一〇二)。東京商口日認可(一〇三)。土匪鋒起(一〇七)。登記法(一一五)。富山の大火災(一一五)。獨逸進出(一一五)。圖書館令成(一一五)。動物虐待防止會(一一八)。鳥嶋爆発(一一九)。東北大火作(一二〇)。得利寺大戦(一二三)。圖書館開始(一三〇)。虎畑大地震(一三〇)。東京人口(一三五)。東北凶作(一三九)。東京驛成(一四一)。到叙日本史(一四四)。獨帝亡命(一四七)。東京大阪往復飛行成功(一五一)。時の記念日(一五二)。東京中央局全焼(一五六)。東阪飛行始め(一五九)。虎門事件起る(一六二)。東洋第一都成る(一六二)。床次氏復縁(一六九)。東京市會院獄起る(一六九)。トーマ氏來(一七〇)。東大飛行便(一七〇)。統制と買上(一七六)。東京各新聞社起つ(一七六)。

長崎港風景(寫眞の六)。中井兆民(寫眞の十一)。中山信名(一九)。齊昭幽居(二四)。中濱萬次郎(三一)。成嶋良讓(三一)。水戸侯薨去(三八)。南京米の始め(六〇)。内外結婚許(六二)。翌志野原行幸(六二)。長崎縣下喜々津村の大火災(八五)。内親王御誕生(九〇)。長崎新聞生る(九三)。内親王御誕生(九四)。内國勸業博覽會(九四)。中村敬宇(九七)。七尾の大火(一〇六)。内親王御誕生(一〇八)。長岡の大火災(一一二)。内地雜居(一一五)。南山の激戦(一二三)。長崎浮船渠(一二三)。南極探検(一三二)。南北正

閩問題(一三四)。直江津富山全通(一三八)。内閣弾劾(一三九)。南洋艦隊(一四〇)。南洋島酋長來(一四三)。南投大地震(一四四)。永井氏懲罰(一五二)。内親王御誕生(一六三)。内親王御誕生(一七一)。苗代革命(一八〇)。内臺聯絡飛航(一八四)。

二の部

二宮尊徳(寫眞の六)。日本外史(三)。二大戦争(五)。二宮尊徳(八)。二宮金次郎起用(九)。日本外史上(一四)。人參買賣許可(一九)。二宮尊徳(三五)。新潟の大火災(七五)。日鐵生(七八)。日本銀行始め(七九)。二重橋正装成(八五)。日飾皆既(八七)。新島襄(九一)。日本新聞生(九一)。ニコライ教堂成(九六)。偽使節拒否(一〇四)。日島占領(一〇五)。似島檢疫所(一〇六)。日本銀行改築成(一〇七)。日英同盟(一九)。日進春日の安着(一二二)。日本海の大戦(一二五)。二十二議會(一二七)。二十三議會(一二八)。日精事件(一三〇)。二十六議會(一三一)。廿七議會完(一三二)。二松學舎(一四三)。日蝕現はる(一四三)。日米共同出兵(一四六)。二部教授始め(一四八)。日曜學校大會(一五二)。日本一大鳥居(一五四)。日本國富(一五七)。日連大士謚號二省新設置(一六二)。日帶黨結成(一六六)。日支交渉(一六九)。農村疲衰極(一七三)。農漁村救済(一七四)。(一五九)。

又の部

沼間守一(九四)。沼津の大火災(二二八)。

ネの部

鼠小僧墓(一七)。年齢計算法(六四)。根室大火災(一〇七)。根室大火災(一一一)。年賀狀特扱始め(二二八)。年二度議會(二七六)。

ノの部

乃木大將(寫眞の二)。詮勝上京(三〇)。農私大學の元祖(七三)。農商務省の始め(七七)。延岡大火災(七八)。濃飛日報生(九〇)。農事修學所(九四)。濃尾の大地震(九七)。農工銀行始め(一〇〇)。能代港の大火災(一一一)。農婦甘藷江赤種を發見(一一四)。乃木大將夫妻殉死(一三六)。乃木家再興(一四四)。農業倉庫法(一四五)。農會法借家法(一五七)。野口博士墓(一六八)。農民暴動(一七〇)。農村疲衰の極(一七四)。農民大會(一七六)。乘逃げ先端(一八四)。農家負債調べ(一八四)。

ハの部

ハリス總領事(寫眞の八)。馬賊統領と日清戦役(寫眞の二五)。馬賊の歌(寫眞の一五)。濱口雄幸(寫眞の二五)。原敬(寫眞の二五)。服部家救はる(九)。青地林宗(一八)。俳人阿々(二四)。伴信友(二七)。蕃書取調所(三四)。爆彈の始(三九)。幕府大改革(四〇)。羽倉簡堂(四一)。蛤御門の變(四三)。砲術の祖(四五)。藩籍奉還(五二)。幕府殘黨降伏(五三)。反逆者の死を免さる(五四)。布哇國親交(五六)。廢藩置縣(五六)。齒磨粉始め(六〇)。葉書と封書(六三)。坂神鐵道開(六五)。博覽會の始め(七一)。バーザの始め(七一)。函館大火(七三)。函館の大火(七四)。箔屋町の大火(七四)。博覽會開催(七六)。博物館成(八〇)。濱松市の大火災(八三)。花井お梅(八七)。博士の始め(九〇)。磔梯山噴火(九〇)。博物館成(九二)。萬朝報生(九三)。板畫の名人(九五)。博覽會(一〇六)。八王子大火災(一一〇)。俳人子規(一一九)。博覽會(一二〇)。廢兵院設置(二八)。バーゲンデーの始め(一二九)。ハルピンの悲劇(一三二)。俳優養成所(一三四)。排日法案(一三八)。函館大火災(一四一)。函館大火災(一四四)。原内閣成立(一四六)。萬歲事件(一四七)。八時間労働實現(一四九)。派遣軍撤兵(一四九)。八八艦隊解決(一五二)。原少將待命(一五四)。初のカツプ(一五五)。原首相刺さる(一五五)。八戸の大火災(一六一)。

ヒの部

平野次郎(寫眞の六)。白虎隊(寫眞の九)。被服廠(寫眞の十)。日傘禁止(一四)。日傘を禁止(一七)。平田篤信(二四)。平井信道(二八)。戊午の難(三六)。久光公上京(三九)。七郷落ち(四二)。短銃の始め(四五)。ビールの始め(六〇)。日出新聞生(八三)。ピストル強盜(八七)。美術學校開(八七)。廣島行幸(一〇三)。ビルジンの元祖(一〇四)。紐足袋影を汲(一〇六)。美術院創立(一一三)。日比谷公園開設(一一〇)。非戰論出づ(一二〇)。廣瀬中佐の戦死(一二二)。常陸丸撃沈(一二三)。肥料取締法(一二九)。眉山と獨歩(一二九)。廣瀬中佐銅像(一三二)。飛行將校遭難(一三三)。飛行郵便始め(一四八)。光輝の發見(一四九)。羅工と軍隊(一五〇)。関之植暗殺(一五三)。瀨死の白鳥(一五九)。ピストル強盜(一六三)。人見絹枝渡歐(一六六)。貧弱な數字(一六六)。ピルの縮拔(二六七)。ピオニール(二七八)。人見嬢の死(二七九)。反宗運動(二七八)。廢燈決議(二七九)。悲惨な職業(二八〇)。百貨店の凄い抗争(二八四)。祕密電話機(二八六)。

フの部

福島大将(寫眞の一四)。藤田東湖(寫眞の七)。福澤諭吉(寫眞の二三)。藤原氏一族(一)。大逆不逞の謀主(二)。文教の基礎(四)。物價値下げ令(八)。婦女買實禁(一二)。藤田幽谷(一三)。藤井高尙(二二)。文久改元(三八)。佛國博覽會(四五)。無踏會(七二)。府縣會の始め(七四)。福島事件(八〇)。婦人束髮會(八四)。伏木港の大火災(八七)。文相暗殺(九二)。府縣制を定(九四)。府縣制成立(九六)。福澤諭吉翁(九七)。福島民報生(九九)。福島中佐(一〇一)。福島民友生(一〇六)。ブローカーの始め(一一五)。福澤諭吉(一一七)。振替口座の始め(一二七)。婦人ホームの始め(一三〇)。偽虜收容(一四二)。踏切番の犠牲(一四六)。普選大示威(一五〇)。不景氣襲來(一五一)。不信任案出(一五三)。婦人蹴球魁(一五四)。普選断行國民大會(一五七)。富豪連脱税(一五八)。普選大示威運動(一六〇)。普選法公布(一六二)。再加藤内閣成立(一六二)。福島の大火(一六七)。富民協會成(一六七)。不戦條約成(一六九)。不戦公布(一七〇)。文樂座開(一七一)。不景氣襲來(一七二)。婦人向煙草(一七八)。佛機墜落(一八一)。振つた乗逃げ(一八四)。不合理極る聯盟表決(一八五)。

イの部

ペルリ提督(寫眞の八)。ペルリ來航(三)。ペルリ來る(三二)。平民に姓を免のす(五四)。平民に乘馬ゆのさる

(一六一)。防空大演習(一六一)。放送局開始(一六二)。朴烈と文字(一六五)。報知機飛(一七四)。頼被り内閣(一七七)。豊作饑饉(一七八)。俸給不拂(一七八)。北洋漁業問題(一七八)。暴力團檢擧(一八二)。

マの部

(寫眞の二三)。丸の内ビルジグ(寫眞の一四)。丸山鶴吉(寫眞の二四)。滿蒙の大風景(寫眞の二四)。滿洲文字譯(八)。松前奉行(一〇)。萬延の改元(三八)。松飾矯正(五四)。巻煙草の始め(六五)。マッチの始め(六六)。萬年筆の始め(八四)。萬代橋(八六)。前橋の大火災(八六)。松本市大火災(八九)。松平春嶽(九三)。松代の大火災(九六)。松方内閣成る(九六)。松本市暴民起る(九七)。松方内閣倒壊(九九)。松坂の大火(一〇一)。毎夕新聞生る(一一三)。萬國郵便加盟(一一三)。滿洲軍首腦(一二三)。松本訓導の殉職(一四九)。賭征伐(一五〇)。抹殺社襲撃(一五四)。滿鐵築獄(一五四)。丸ビル竣工(一五九)。松島事件(一六五)。丸山總監調停(一七一)。松江市大火(一七九)。滿鐵社長(一七九)。滿蒙在住の邦人數(一八二)。

ミの部

(五六)平民服装令(五七)。米會所始め(八八)。辯護士法公布(一〇一)。平壤の戦争(一〇三)。米布合併(一一〇)。平和會議(一一五)。ベスト發生(一一五)。ベスト豫防(一一六)。ペルリ上陸記念(一一八)。ベスト流行(一二〇)。米國講和提議(一二五)。平和條約成立(一二六)。米國排日問題(一二七)。米國野球團來る(一二八)。別子銅山騒(一二八)。ペヒーゴルフ(一三五)。ベルヌ條約(一四三)。平和祝賀會(一四八)。平和博開催(一五七)。ヘルメット警官(一五八)。米飛行機來る(一六一)。蛇廿四萬匹(一七九)。別府の大火(一八六)。

ホの部

砲臺増築(二五)。堀切の菖蒲(三〇)。砲臺新設(三〇)。寺院の梵鐘の大砲化(三四)。帽子流行始め(五六)。報知新聞生る(五九)。暴動各地に起る(六〇)。防長新聞生る(八二)。北海道廳設(八四)。豊州新聞生る(八五)。北海道毎日新聞生る(八七)。保安條例(八八)。北國新聞生る(一〇一)。星議長除名(一〇一)。豊島沖の海戦(一〇二)。鳳凰城占領(一〇四)。澎湖島占領(一〇五)。短艇天覽(一〇九)。保安條例廢(一一三)。箒川慘事(一一五)。北海タイムス生る(一一八)。星亨(一一八)。ボイント式活字(一二二)。賀易新聞生る(一二二)。奉天占領(一二五)。戊申詔書渙發さる(一二九)。北鐵祝賀式(一四四)。北陸大地(一四五)。砲兵廠罷工(一四九)。邦文タイプライター(一五一)。奉直戦争

水戸齊昭(寫眞の五)。水戸侯の封事(二〇)。水野忠邦(三一)。水戸烈公(三九)。ミシンの始め(五八)。妙國寺事件(五〇)。民選議院開設請願(六四)。三菱の創始(八三)。宮城新築成る(九一)。都新聞生る(九一)。民法發布(九四)。御影の大火災(九八)。民法制定(一〇四)。未青年禁煙(一一六)。二つ巴式地方振興策(一二一)。宮崎新報生る(一二四)。光宮御誕生(一二四)。民族會議(一六六)。三崎町大火災(一三八)。三井重役審かる(一四三)。民話流行(一五六)。宮崎縣の大地震(一八六)。

ムの部

室町時代の文化(二)。陸奥銀山開(九四)。陸奥日報生る(九八)。無電發明(一一〇)。村井兄弟商會(一一〇)。無電實驗(一三八)。席織機の發明(一四七)。無産團解散(一六八)。無産黨の動き(一七〇)。無産合同(一七四)。霧社蕃暴動代(一七六)。村の問題(一七九)。無肥料四石(一八四)。

メの部

明治神宮外苑野球戦(寫眞の二五)。名家逝(八)。名士名人逝(九)。名人名士逝(九)。名人逝(一九)。名人

名儒(二四)。米船房州來る(二五)。明治初年渡船賃表(二六)。米船漂着(二八)。明治大帝御降誕(三二)。人名士(三四)珍らしい目出度い話(七十)婆と八十婆の姪(二六)。明治天皇御踐祚(四七)。名家名儒(四七)。明治元年の歳出入(四九)。明治と改元(五二)。メリヤスの始め(五五)。明大生る(七六)。名院長自殺(八五)。名優の死(八七)。名人名士(八七)。名士逝く(一二二)。メーデーの騒ぎ(一七三)。名家名人(一二七)。メーデーの始め(一二五)。明治天皇御不例(一三五)。明治天皇御大葬(一三七)。名家名人逝く(一三九)。名家名人逝く(一四一)。名家名人逝く(一四五)。明治神宮鎮座祭(一五二)。名譽の悲慘(一五六)。明治節制定(二六七)。メーデー法實施(二六九)。明治神宮々司(二八一)。

モの部

本居宣長(寫眞の六)。森有禮(寫眞の一)。盲偉人逝く(一〇)。本居春庭(一五)。毛利父子許す(四七)。もしほ草創刊(五〇)。文部省始め(五六)。森有禮の新式結婚(六六)。モスリンの始め(七〇)。黙阿彌(一〇〇)。模範村(一四一)。叔摺機械(一四七)。森戸辰男事件(一五〇)。盲詩人退去(一五四)。モラトリアムの始め(一六七)。問責案可決(二七〇)。元寶捌廢止煙草(一七三)。

ヤの部

山縣有朋(寫眞の一〇)。山内容堂(寫眞の七)。山本權兵衛(寫眞の十四)。安田善次郎(寫眞の二五)。山脇房子(寫眞の二二)。山手大火(二五)。山縣公渡(五三)。山梨日日新聞生る(六〇)。野政の始め(六二)。山口の亂(六九)。山形新聞生る(七三)。安田銀行生る(七四)。飯原の大火災(八一)。山岡鐵州(九〇)。山田顯義(一〇〇)。山形大火災(一〇二)。谷村の騒動(一二六)。山本内閣成(一三七)。山田憲の鈴辨殺し(一四七)。山路愛山逝く(一五四)。安田老刺さる(一五五)。山縣公薨去(一五七)。山本内閣成立(一六〇)。山宣暗殺さる(一七〇)。

ユの部

郵便創設(五五)。遊女解放令(六〇)。遊就館(七八)。郵船生る(八四)。雄辯會生る(一三二)。逝ける名人名士(一三四)。郵船遭難(一四五)。夕張總罷業(一五三)。逝ける名士(一六三)。有髮尼始め(一八一)。

ヨの部

吉田松陰(寫眞の八)。横濱村(寫眞の七)。吉田松陰と佐久

間象山(八)。洋式野砲始(二八)。英船又浦賀來る(二九)洋算の始め(三四)。洋菓子の始め(三四)。西洋藥(三五)吉田松陰(三七)。横濱港の由來(三八)。慶永上洛(四一)四谷の大火(五〇)。養育院始め(六一)。横須賀行幸(六三)。讀賣新聞生る(六五)。幼稚園の始(六九)。養老の典(七四)。四ッ谷の大火災(七六)。横須賀行幸(七七)。四谷大火災(七八)。横濱水道の始め(八七)。横須賀大火災(九一)。横須賀市大火災(九六)。横濱築港成(一二七)。吉原の大火(一三四)。輿論喚起(一四一)。米澤大火災(一四五)。ヨッフエ來る(一六〇)。洋釘の國産

ラの部

賴山陽(寫眞の五)。駱駝献上(九)。樂翁公(一五)。賴山陽(一七)。蘭學禁止(二二)。蘭使再警告(三〇)。羅卒を置く(五七)ランプの流行始め(五八)。ラムネ流行始め(六一)。ラジウムの調査(一三一)。ラジオの始め(一五七)。賴山陽贈位(一八三)。

リの部

立憲君主國(四)。立太子式(二二)。兩雄會見(五〇)。琉球王優遇(五七)。陛下御斷髮廢黛涅齒(六二)。利子法定(七二)。リボンの始め(一〇二)。兩羽大地震(三〇四)。旅

順口占領(一〇四)。李鴻章狙撃さる(一〇五)。遼東還付(一〇五)。旅順口砲撃(一二二)。旅順口閉塞(一二二)。旅順口強襲(一二三)。旅順包圍軍(一二四)。遼陽の激戦(一二四)。旅順の降伏(一二四)。旅客航空始(七一〇)。リードパーク夫妻來(一八一)。柳條溝事件から出兵迄(一八二)。諒暗明け(一四三)。流行性感冒流行(一五〇)。流感又猛烈(一五〇)。

ルの部

煉瓦の始め(三二)。聯合艦隊馬關に迫る(四四)。列車大衝突(一三九)。同(一四八)。連續議會始め(六一二)。

ロの部

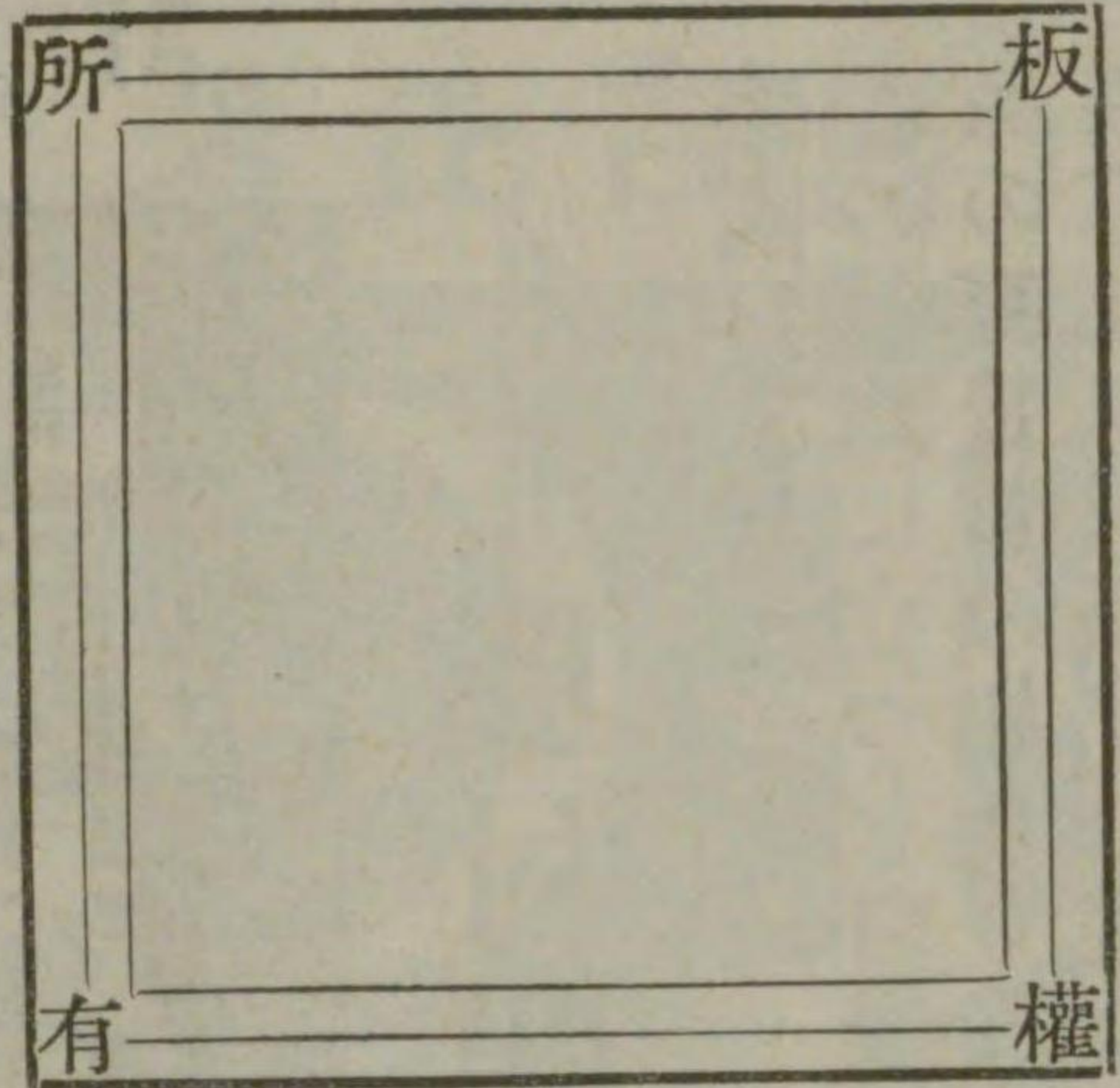
露西亞學堂(一二)。露書和解成(一三)。老中更迭(二四)。老中更迭(二五)。露艦來る(三三)。老中更迭(三五)。老中任命(三七)。六鎮臺始め(六一)。労働組合の始め(八三)。露帝戴冠式(一〇八)。露國進出(一一三)。露陸相來朝(一二〇)。露國第一次革命(一四五)。労働劇(一五〇)。労働ロシヤ(一六二)。労働農民黨(一六五)。ロンドン軍縮會議收

穫(一七三)勞農紛争(一七四)。

ワの部

若槻禮次郎(寫眞の二四)。和蘭使節來(二五)。和親日米
 約成る(三三)。和製グワイオリンの始め(七六)。若松市
 大火災(八〇)。隈閣天折(一一四)。早稻田昇格(一九)。若
 槻内閣成る(一六五)。若槻全權(七二)。稚内大火災(一七
 六)。若槻内閣成立(一七九)。葉綿の發明(一八五)。

昭和六年十一月廿八日印刷
 昭和六年十二月一日發行



定價 並製本 壹圓貳拾錢
 但 東京市街地圖付は二十錢増の事

著者 石田傳吉

東京府北多摩郡千歳村眞樂莊

發行者 大和重太郎

東京市本郷區駒込林町二〇一番地

印刷者 共同印刷株式會社
 加藤貞三

東京市小石川區久堅町一〇八番地

發行所

東京市外千歳村烏山七〇一

地方改良協會出版部

振替口座東京三四四六一番

農村革新叢書

訂 改

理想の
著者

石田傳吉先生著

四六版ポイン
ト組本綴
正味四百頁
正價貳圓 寫真八頁
送料十八錢

農村改造十六講

農村問題解決の鑰鍵

肇國以來曾つて無かりし國難に直面する吾等は、今、國家として民人として興亡の岐路に立つを自覺せずばなるまい。昨今激甚する處の小作爭議又は農村農家の經營難の如きも其國難の最小波動に過ぎない。吾等は思想惡化の據つて來る原因を正視しないで、然も其善導の大本を、事もあらうに、儒佛を生んだ所謂東洋思想にのみ便らんとするが如き、迂濶者であつてはならぬ。今、その眼前背後に鬼襲する大敵！國難に處する必勝の戰術を誰れも求めて止まない、國家興隆の大經綸がなければならぬ。

本書「改造十六講」は茲に一大經綸を高く建て、朝野の覺醒を促すと共に進んでその戰線に力戰して、小は農村農家の難關を突破し、大は邦家の大難を打ち拂ひ、救世濟民の本旨を果さんとする處に本書の任務がある。

發兌元 東京市外千歲村烏山 地方改良協會

農村革新叢書

石田傳吉氏著作

理想の村

現代に於ける地主と小作の醜陋なる心理を發きて兩々與せずその蒙を啓き經濟道德の科學的基礎に立脚し始めて階級意識を脱せし人間生活の殿堂「理想の村」を展開し來る。そこに爲政治家も資本主も小作人も無い赤裸々の人間を見る事が出来る。堂々一千頁に餘る長篇大創作である。

永井柳太郎氏曰く
その一頁々々が著者の確實なる智識と深刻なる同情とを想像せしむ……

高島米峰氏曰く
言々句々農村の將來に同情ある傳道者の確信の表現である……

内ヶ崎作三郎氏曰く
之を讀めば地獄に沈みたる貧村が天國の如き状態に變する有様愉快何とも名狀しがたし……

發賣所

東京市外千歲村烏山
振替東京三四四六一

地方改良協會

四六版八百六十頁 定價金貳圓五十錢 函入ホブリン裝幀 畫留送料貳拾七錢

石田傳吉二名著名

内理想郷物語

四六判七百頁
寫真版十數葉
定價三圓五十錢
送料二十七錢

佐藤信洲の理想國、矢野龍溪の理想社會、トマス・モアアの理想郷、ウキリアム・モリスの理想社會、エドワード・ベラミーの新社會、プラトンの理想國、トマス・ヒューズの理想國家、ヘルバート・ウエルズの新ユートピア等を極めて詳細に解説しその共通の契機を捕へて得たる結論に著者が讀んで味をせしめ、茲に新に描き出したる眞理想郷建設の計畫を發表したるものにして、單なる讀書人に取りては趣味と實益とを兼ねたる机上の珍寶たるはもとより言ふまでもなく又夫の都會生活の繁雜と混濁とより遁れて田園生活の簡素と清淨とを併せ得たる「理想の村」「理想の家」に憧憬する人々の爲には眞に最初にして且つ唯一の指針也

本書の出版に際し内務省の嚴密なる内閣を受けるために三月より七月に渉りて約一百餘日を費せり之によりて見るも本書の敘述が如何に緊張したものであり又内容の充實した讀物であることが知れよう。

義民乎逆徒乎

四六版箱入
全ポイント組
定價貳圓五拾錢
送料廿七錢

身を殺して仁を成せる義民宗吾も時の政府は之を目して逆徒とせり其他時の政府が逆徒として極刑を加へたる幾多犠牲者は永久に義民と稱せらるゝの期なかるべきか本書古今二十餘人を得てその慘風に梳き悲雨に浴するの實歴を詳叙す一たび巻を繰れば涙滂沱として禁じ難きものあらむ

好評如湧重版亦重版

惠峰石田傳吉先生著

最新刊

小説理想の農家

四六判五百頁假名付
印刷鮮明。函入特製
定價壹圓七拾錢
送料十八錢

類例のない書物むづかしい農家の經營法生活上の改革を面白く小説として解説されたもので講談本を讀むよりも樂に科學的經營法が學べる、本編納むる二十六章悉く金玉の文字のみ。

本書の内容

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 一、二つの芽 | 十、散る種子 | 十九、歡びの高蜂 |
| 二、岐れ路 | 十一、寄り合ふ心 | 二〇、頼られる人(一) |
| 三、春宵の不安 | 十二、蒔かれた種 | 二一、同 |
| 四、黒い室への逆徒(一) | 十三、奈落の底(一) | 二二、同 |
| 五、同 | 十四、同 | 二三、同 |
| 六、父の死(三) | 十五、同 | 二四、同 |
| 七、父の死 | 十六、對ふの岸へ | 二五、再生の花 |
| 八、寛の手 | 十七、歡喜の光(一) | 二六、永久のほまれ |
| 九、光りを探れる人 | 十八、同 | |

十版

農村改造講話

權威ある本書を讀め、凡て農村問題は本書に解説されたり。

四六判三百五十頁
定價壹圓五拾錢
送料十八錢

東京市外千歲村七〇一
發賣所地方改良協會

振替東京四四六一番

東京市外千歲村七〇一
發賣所地方改良協會

惠峰 石田傳吉著 井山本凡骨彫刻

家庭一宮尊徳先教訓畫譚

四六判百書入二百三十餘頁 假名付頗美本 定價五拾錢 送料十二錢

高尚優雅なる百の繪先生の善行と教訓と道歌と平易に解説せる空前無二の二宮傳及逸事逸話の報徳教の要旨をも極めて通俗的に説明してあれば青年會、處女會、農會、産業組合、其他各學校の賞品として又家庭及學校課外として絶好の良書なり勿論尙も家庭教育に志すの士は是非本書を備へざる可らず

發賣所 東京市外千歳村烏山七〇一 振替東京三四四六一番 地方改良協會

＝也下天の者働勞＝

勞働神聖論

勞働者の權威＝使命＝幸福を力説したる快著

著者は本書に宣言して曰く、吾人は勞働の神聖を擁護せんが爲めに、勞働の成果を搾取する惡魔の絶滅を期せざる可らず、斯くて現世をして働く者の天國たらしむべく飽くまで健闘せざる可らず。吾人の勞働をして人類の共榮向上の爲めに神聖たらしめざる可らず、故に勞働せざる者は喰ふ可らず、着る可らず、この道念を萬人の心に強く植付ざる可らず。

- 容内の書本
- 第一章 總説
 - 第二章 勞働する人は安心立命を得らるる事。
 - 第三章 勞働する人は健康なる事。
 - 第四章 勞働する人は長壽なる事。
 - 第五章 勞働する人は金に困らぬ事。
 - 第六章 勞働する人は食物の美味なる事。
 - 第七章 勞働する人は獨立なる事。
 - 第八章 勞働する人は家内繁昌なる事。
 - 第九章 勞働する人は他人を益する事。
 - 第十章 勞働する人は忠孝の道を実践する事。
 - 第十一章 勞働する人は正直道なる事。
 - 第十二章 勞働する人は貴重なる事。
 - 第十三章 勞働する人は眞の愛國者である事。
 - 第十四章 結論

惠峰 石田傳吉先生著 發行所 東京市外千歳村七〇一 振替口座東京三四四六一番 地方改良協會

四六判圖表入り 假名付七十餘頁 價送料共三十二錢

農村革新娛樂品

是れ又絶好の贈答品

宮内大臣
文部大臣

一木喜徳郎閣下題字
岡田良平閣下賛辭

惠峰 石田傳吉編輯
(地方改良協會發賣)

報徳修養かるた

清新なる娛樂品——報徳修養かるたの葉一册付

五色印刷頗鮮麗
讀札百枚取札百枚壹組
美麗函入葉付
定價六十錢送料十八錢

このかるたの楽しみは、その流し防いで下さる如き

○新時代の要求に應じて創案された報徳修養かるたの特色
世界的偉人二宮尊徳先生の教訓道歌一首に配するに、其波瀾曲折に富むだ、先生の生涯七十年。あらゆる人生の苦難と悪戦し善闘して、よく最後の勝利を全ふされたる血のニジムやうな先生の御生涯を一百枚の彩色畫として、又それを讀札取札二百枚として組立てられたる理想的娛樂品にして亦修養の絶好資料である。而も本かるたの特色として誇るべきは偉人先生の思想より溢れ出る一圓融合の道歌と彩繪によつて教訓されてゐるから、誰でも一見一讀良く其眞髓を會得することの出来るのが本かるたの特色である。好評噴々在來の百人首かるたのやうに大勢で愉快に樂しめる
△青年訓練場、青年團、處女會等の常備娛樂遊具として理想的である
△年未歲始贈答用として意義最も深く高尚で而も廉價な教育的贈答品である。

農村革新叢書

好評評々

石田傳吉講述

廉價無比

家の改造と町村の改造

世界三恩人肖像入
内容豊富字數普通
書物の二倍強を納
全ポイント活字組
一頁八百一八字詰
總振かな付八〇頁
價三十錢送料二錢

■地方行政評 桂、梁の腐れた家は一旦崩して造り直さねばなりません。腐れずとも風の吹くたびゆら／＼と動搖して危険甚だしくば之も亦改造せなければなりません。されば我家我郷土も何とかせなくてはならない。地の使徒石田傳吉氏は此の問題に答へて各種の方面から研究して指導されてゐる。此の一卷の小冊子は我が家のため我が郷のため蒼穹に鏤む星のそれよりも光輝いてゐる。

■福島新聞評 著者惠峰石田傳吉氏は熱心なる農村研究家で曩に「理想之村」を著して居る。本書の内容は第一講には「吾等の脚下を揺る世界改造の大濤」以下七篇を納め。第二講には「食客が跋扈して主人が小さくなる」以下四篇。第三講には「至純至聖我が家族制度と我が皇室」以下八篇。よく其趣旨を貫徹してゐる是非一讀すべきである。

地方改良協會 一〇七村歳千外市京東 番一六四四二京東座口替嶺

農村革新叢書

惠峰石田傳吉先生著

最も平易に解説したる指導書

地の使徒として新界に名聲轟々たる石田先生が難村改造の根本問題を七六に分最も通俗平易頗る懇切に講述され町村當局者の最良指針であるは勿論のこと青年會婦人會等の讀物としても最良のものである。

難村改造七百七夜の講演會

〇四六版圖表入り 假名付二百餘頁 定價六拾錢 送費拾貳錢〇

本書の内容要目

- 一、町村是の設定は如何にすべきや。
- 二、産業組合と報徳主義との關係。
- 三、自治制度と國民の三大義務について。
- 四、難村改造の型式について。
- 五、致富の方法としての報徳主義。
- 六、自治の能力と新平民の卑からざるは新華族の卑からざるが如し。
- 七、共同積立の方法は分度經濟と物品積立について。

附録 地方農民の叫び。同情溢る、同志の手翰。全國五十二大新聞雜誌の批評。

發行所

東京市外千歲村
烏山七〇一

地方改良協會

振替口座東京三四四六一番

新時代の要

興村乎——亡村乎

全國一萬有餘の町村は今や其岐路に立てり

自治界の權威
「理想之村」著者

石田傳吉先生著

菊版寫真入り四百頁餘本綴
正價貳圓 送料十二錢

理想郷の建設

刮目

見よ

著者が南船北馬十六年間に亘る貴重なる實驗を根柢としての鐵案

- 理想郷の建設は地方行政教育實業不振の原因を大膽に指摘せり
- 理想郷の建設は地方行政教育實業の改革策を率直に詳論せり
- 理想郷の建設は戦後に起る新人の要求もツトも也信條なり
- 理想郷の建設は新らしき村を建設する唯一の指針なり

救へ——興せ——國家の中堅たる自作農の没落頻るを

發行所 東京市千歲村一〇七 振替口座東京三四四六一番 地方改良協會

生活革新の羅針盤

版重亦版重

國民生活更新原理鑑

——不景氣を根絶する生活革新の基調は是だ——
理想の村著者 石田傳吉著 定價 壹部賣送料共十二錢
百部纏送料共十圓

デパートや凡ゆる百貨店の繁昌する限りは生活難は絶えませぬ。物質生活を超越した偉人の生活は別として普通人の生活には一定の規程がなければならぬ。人間自身を止めどなき慾望のカタマリであることを見省して見る必要がある。即ちその止めどなき慾望を壓えて生活する規程を必要とするは云ふまでもない。斯く云ふたからとて、封建時代の規程でよいと云ふのではない。今は資本主義全盛の時代であるから、資本主義等に相應する生活規程を選ぶ必要がある。吾が羅針盤はこの見地からその必要に應じて生れたものである。然も吾等の抱持する道徳經濟主義の所産であること強く一言しておく。尙その道徳經濟主義は西洋人の所論の受賣りでもなければ又、古くは支那や印度のそれでもない。大日本主義に發露する純國粹的所産である、もしそれを茲に披瀝するなれば、古來吾等大和民族の祀る福の神様の御姿によつて暗示されたものこそ國家民人の生活の基調となす可きものである。吾等は本春出雲大社に參拜した砌り本社境内へ一歩入ると直ぐに實感に打たれたものがある。その實感によつて得たるものは直ちに吾等の詩となつた。

○惠比須大黒日本の國の生活し教えし福の神
資本主義時代に處する生活の規程は、この二柱の御神の示教に據らねばならぬ、そこに大和民の發展がある向上もある國富も増大される謂んや個人も富有になつて來る。
生やさしい暮方の改善や先代の遺徳で光る人を擔いて有難がつてゐるやうな生活改善等では國家も民人も所詮救はれないものであることを附言しておく。

發行所 東京市外砧局區内烏山眞樂莊内 地方改良協會 振替 東京三四四六一番

復興の模範一成功の巨人

特價提供

○報徳訓は故内大臣三條實美公の篆額、故内閣大書記官金井之恭先生の書。御肖像は又、二宮本家の寶物を寫せる坊間得難き稀品である。稀世の逸品家寶として珍藏すべきに足る可し。協會員外へは僅か一百本しか頒つ餘裕が無い至急御申込みを待つ。

報徳訓二宮肖像掛軸

極上軸製
長六尺仕立
床懸用
上等木箱入
一軸壹圓五十錢
送料 廿七錢

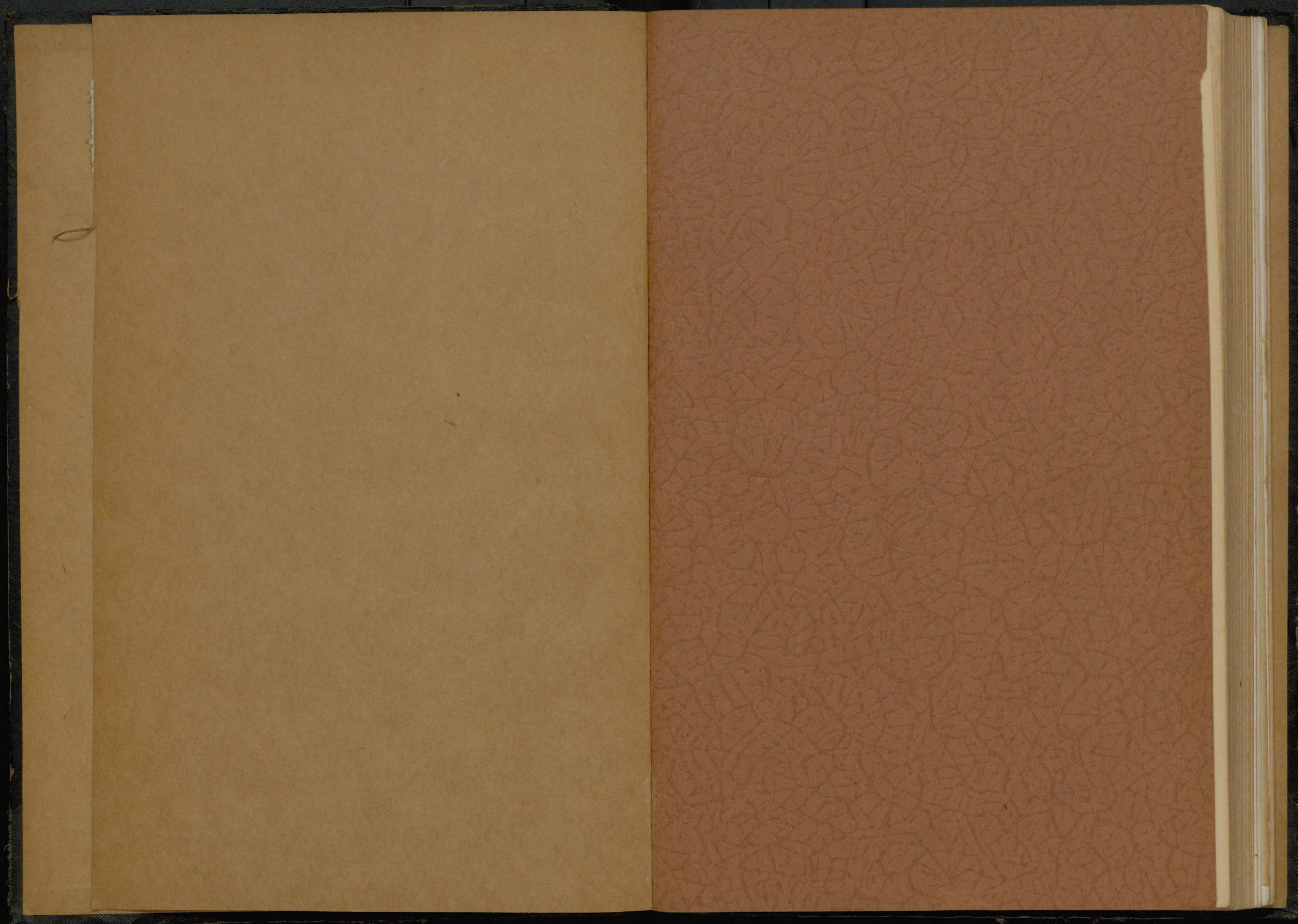
平和裡に處する純日本道の典型を求めたならば二宮尊徳先生は蓋しその第一人者であらうと思ふ。二宮先生は教徳の教祖として道徳經濟併行の道を実踐して成功された近世の偉人であり又二千六百年の歴史にも稀なる方であります。その報徳の教を尊奉する家庭から兄弟揃つて二大臣を出してゐます。即ちその一人は前の文部大臣として今現に樞密院顧問官なる岡田良平閣下であります。その又御一人は現に宮内大臣として令名高き二木喜徳郎閣下であります。されば、自覺ある現代人の床間には是非そうゆうよき家庭の信仰の中心となつてゐる偉人の教訓と御姿を拜誦して大いに自己及び全家族人たる人々の日々修養の對照に資すべきであるを信じて止みませぬ。報徳の教を信奉する吾徒の要望に應じて複寫刊行したるものながら一般清新なる御家庭の要求にも應ずべく御希望に従ひて頒布することにいたしました。殊に國難來の今日新春床間にかゝけて修身齊家の糧となされんことをおすゝめして止みませぬ。

頒布元

地方改良協會

東京市外砧局區内烏山眞樂莊内

振替東京三四四六一番



600
268

